

付不取敢八木ニ相当電訓シ置キタル処左ノ通り來電アリ尚ホ引続キ注意方申遣シ置キタリ

## 八木来電第一七〇号

九月二十九日総会ノ結果ハ吳總理北京ニ赴キ滬寧鉄道ノ標準条件ヲ以テ国有ノ運動ヲ為スコトニ決議シ九江工程局ハ審査員ヲ設ケテ帳簿ヲ検査シ改良ヲ加ヘ工事ハ出来得ル限り進捗セシムルコトナリタリ南萍鉄道白耳義借款意見ヲ右總会ニ提議シタル者アルモ何等決議ヲ見ス又具体的ニ資本家ト協議ヲ始メタル次第ニハ非ラサル如シ今回ノ変動ハ李烈鈞失脚ニ依リ從来ノ不平党勢力ヲ得来リタル結果ニシテ暫クハ紛擾続出スペク我ニ不利ナル運動盛ンナルニ至ルヘシト観察ス

七一三 十月六日 在上海有吉總領事ヨリ  
牧野外務大臣宛（電報）

## 南潯鉄道ノ国有化問題等ニ関スル件

第三〇三号

貴電第九九号ニ關シ關係筋ニ達シ居ル報道ニ依レハ南潯線國有ノ議ハ總会ニ於テ葉ナル一株主ノ發議ニ係リ政府カ全株券ヲ現金ニテ買上ヲ条件トセルモノニシテ單ニ國有ヲ可

漢口済  
メ居ルモ右一應申進ス

七一四 十月十日 在中國山座公使宛

## 南潯鉄道工事進捗ニ関スル覺書等ニ付通報ノ件

政機密送第二八七号

南潯鐵道ハ未タ九江徳安間ノ開通ヲ見タルノミニシテ更ニ德安南昌間ノ第一、第三両区ノ工事費並ニ第一革命戰乱ニ

ヨリテ已設区间ニ蒙リタル損害復旧工事ニ多額ノ資金ヲ要スルモ御承知ノ通リ同公司ハ已ニ其工事資金ノ大部分ヲ消費シ尽シタレハ別ニ資金ヲ調達スルニ非ラサレハ到底前記工事ノ遂行ヲ期スル能ハサルノ事情ニテ義ニ同公司側ヨリ

東亞興業会社代表者白岩同社取締役ト公司側ノ

機密第八二号  
大正二年三月七日

在清国

同ニ付周學熙及小田切間会談内容報告ノ件  
特命全權公使 伊集院彦吉（印）

外務大臣男爵 牧野伸頤殿

近頃當國新聞紙上ニ寧湘鉄道即チ南京ヨリ安徽省ヲ通シテ湖南省長沙ニ到ル鉄道ノ計画ニ關シ中央政府ニ於テ之ヲ經營敷設セシコトヲ安徽人ヨリ請願セル旨ノ記事ヲ掲載シアリタルカ小田切取締役ハ予テ周學熙ト同地方ノ鉄道事宜ヲ相談セシ關係アルヲ以テ三月五日他用ヲ以テ周學熙ニ面会シタル節右鉄道ニ關スル新聞記事ノ實否ヲ問ヒ質シタルニ周ハ右鉄道計画ハ安徽人李經義楊士琦及自分（周ハ安徽人ナリ）等相談ノ結果大体ニ於テ意見ノ一致ヲ見タレバ請願書ヲ中央政府ニ提出シ國務院ノ議ニ附セラルコトトナリタルモノニシテ現ニ右請願書ハ國務院ノ桌上ニ在リ該院ニ於テモ主義トシテ大体右ノ計画ニ異存ナキ模様ナルニ付キ多分可決セラルコトトナルベク愈々可決ノ暁ニハ之ヲ交通部ニ交附シテ寒地ノ計画ニ着手セシムルコトトナルベシ

註 別紙ニ付テハ前掲七〇九文書附屬書參看

## 四 寧湘鉄道

七一五 三月七日 在中國伊集院公使ヨリ

牧野外務大臣宛

寧湘鉄道國營問題並該事業資金供給ノ日英協  
七 華中及華南鉄道交渉ニ關スル件 七一五

ト思料スル旨相答へ候ニ付小田切ハ若シ外國ノ資金ヲ要ストスレバ予テ申出置候通日本ガ此ノ資金ノ供給ニ応ズルコトト致度旨述ヘタルニ周ハ今日日支実業ノ聯絡ハ袁世凱以下我國人多數ノ希望ナレバ此ノ鐵道ニ對スル日本ノ投資ハ歓迎スル所ナリ併シナガラ此ノ鐵道ハ揚子江ニ沿フテ敷設セラルモノナレバ英國カ揚子江一帶ニ於テ有スル重大ナル利害關係ニ顧ミ英國ヲ度外ニ置ク能ハサルベキニヨリ日本ト英國ト合同シテ資金其他ノ供給ニ應ゼラルコトコソ穩當ナルベシト思料セラル就テハ日本ヨリ英國側ヲ勸誘シ日英協同ノ事業ト致サレ度左スレハ國務院ニ於テモ亦發起者ニ於テモ之ヲ考量スルニ便ナルベシト答ヘシニ付小田切ハ揚子江一帶ニ於テ外國ノ有スル商業上ノ利益ニ就テハ英國首位ニ在リ日本之ニ次ク次第ナレバ此ノ方面ニ於ケル支那鐵道事業ニ關シテハ日英協同シテ其ノ局ニ当ラソコトハ主義トシテ同感ニシテ今帰國中ナル英支組合支配人「メイエース」ガ出発前ニ已ニ意見ヲ交換シタル處同氏モ亦贊成ニシテ帰國ノ上ハ有力者ノ間ニ相談ヲ試ムベシト云ヒ居タレバ英國側ニテモ主義ニ於テハ異議ナカルベキ右協同實行ノ事ヲ日本側ノミヨリ英國ニ対シ申込ムコトハ日本ノ立

特命全權公使 伊集院 彦吉（印）

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

南京ヨリ安徽省ヲ經テ長沙ニ至ル所謂寧湘鐵道ニ關シテハ本年三月七日附機密第八十二号往信ヲ以テ報告致置タル次第有之候處此程英國公使來訪ノ際ニ談及シ小田切「ロバートソン」会談ノ始末承知シ居ルヤト相尋ネタルニ付本使ハ小田切氏ガ本件ニ關シ日本資本家ヲ代表セル權限ノ如何ハ知悉セザルモ「ロバートソン」ト会談ノ模様ハ固ヨリ承リ及ベル旨ヲ答ヘ尙ホ元來此ノ鐵道ハ小田切ノ夙ニ考慮シ居タルモノノナル所先般支那新聞紙上該鐵道ニ關スル記事現ハレ且ツ其ノ發起人ハ安徽人中相當ノ信用アル輩ニシテ比較的眞面目ナル計画ナル様相見エタルニ付小田切ハ周學熙ニ會見ノ序尋問スル處アリタルニ周ハ該鐵道ノ計画ガ將サニ國務院ノ許可ヲ得ントスルコトヲ答ヘタル上小田切ニ付シ日英協同引受方可然旨申述ヘタルニヨリ小田切ヨリ「ロバートソン」ニ会談スルニ至リシ次第ニシテ已ニ後者ヨリ電報及郵信ヲ以テ英國本部へ報告シタル由ナレバ其中何トカ沙汰アルベキモ折角支那側モ同意セルコトナレバ可成日英合弁ノ事ニ致ス方可然ト思料スル旨一通リノ経過ヲ

場ハ兎モ角モトシテ事ノ成立ヲ速カナラシムル所以ニアラズ仍テ支那側ヨリモ英國ニ對シテ日英ノ協同ヲ慾漬セラレナバ円滿ナル結果ヲ見ルニ便ナラント考フルニ付序ノ節朱ミニテ何等纏マリタル義ニハアラザルモ大体本件ニ關スル支那側ノ意向ヲ窺フニ御参考ト可相成乎ト存シ小田切氏ヨリ聞取リノ倅大略及報告候 敬具  
尙ホ本日周學熙ガ他用ニテ小田切ヲ來訪シタル節本件ニ談及シ本文會談ノ次第ハ朱總長ニモ物語リタル處同總長モ自分ノ意見ニ全然同意ナル由申居タル旨申述タル趣ニ有之候間乍序申添候

七一六 三月十八日 在中國伊集院公使ヨリ  
寧湘鐵道ニ對スル日英協同投資ニ關シ英國公使ト會談ノ件 機密第一一五号

大正二年三月十八日 在清國

述ペタル處英國公使ハ大体ニ於テ同意ヲ表シタルモ六國團規約現存スル以上ハ日英共ニ其ノ羈束ヲ受クル訳ニテ直チニ這般ノ事件ヲ相談スルニ便ナラサルモノアルベシト申出候ニ付本使ハ六國團規約ノ拘束力ハ尙ホ渝ラザルモ實業借款除外ノ事ハ曩ニ六國團巴里會議ニ於テ議決シタル所ニシテ只タ其ノ除外ノ後ニ於テ六國政府ガ各自國人ノ投資ヲ取締ルベキ条件ガ關係國政府間ニ未ダ協定ヲ経ザルノミナレバ實業借款除外ハ主義ニ於テ已定ノ事實ナリ故ニ日英兩國資本家ニ於テ此ノ際該鐵道ニ關スル協議ヲ遂ケ置キ一面他ノ競争ヲ防止シ他面機會到来セハ速カニ實行シ得ベキ予備ヲナシ置クコトハ毫モ差支ナシト思料スル旨縷々説明致候處同公使ニ於テ成程ト首肯シ同意ヲ表シ「ロバートソン」ヘハ小田切ト尙ホ相談可致旨申聞置クベシト申居候支那鐵道ニ對シ日英協同投資ノ件ニ關シ「メイヤース」帰國後ノ消息ハ曩キニ在倫敦正金銀行支配人ヨリ同行本店宛換シ居タル通リ支那鐵道大體ニ對スルモノニシテ今回ノ如ク或ル特殊鐵道ニ對スル具体的提案ニ就テハ英國側ノ意氣

込モ自ラ異ルモノアルベキカト被存候鬼モアレ此ノ際我ニ於テハ該鐵道ニ対スル量見ヲ定メ英國側ニ對シテハ飽迄協同ノ方針ヲ以テ交渉シ置クコト必要ナルベク他日若シ我ニ於テ寧湘鐵道ヲ引受クルコト好マズ又ハ引受クルコト能ハサルノ事情ニ際会シタルトキハ之ヲ南萍鐵道ト交換問題トナスノ材料トモナシ得ベク結局ハ如何ニ措置スルトシテモ早キニ迨シテ或ル地歩ヲ占メ置クコトハ有益ナルヲ失ハズト思料致候

英國公使ト会談ノ模様報告旁々卑見開陳致候 敬具

七一七 四月二十一日

在中国伊集院公使宛  
牧野外務大臣ヨリ

寧湘鐵道借款ハ差当リ我方名義ニテ仮契約ノ

ミニテモ締結スル方得策ニ付訓令ノ件

機密送第一〇八号

曩ニ英支組合ノ「メーヤース」カ横浜正金銀行倫敦支店文配人ニ対シ四国團体規約現状ノ併ナル以上ハ支那ニ於ケル一般又ハ特種鐵道事業ニ關スル日英共同ハ實行ノ余地ナキ旨内話シタル趣ハ本年二月二十七日同支店ヨリ横浜本店宛來電ニテ御承知ノ通リニ有之候處英支組合側ノ共同ヲ為シ

総長並朱交通總長トノ間ニ懇談ヲ継続進行セシメラレ候様致度候尚英支組合側ノ事情前記ノ通リナル以上ハ南萍線ニ關シテモ予メ「メーヤース」ト打合ヲ遂ケタル上後日英國側參加ノ余地ヲ残シ差當リ我方ノ名義ノミニテ關係ヲ着ケ置クコト可然ト思考致候處小田切取締役ト御打合ノ上御意見御回報相成度此段申進候 敬具

七一八 六月一日

在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛  
(電報)

寧湘線南萍線等ニ關スル小田切「メーヤース」

案ニ付英國公使ノ意見報告及請訓ノ件

第四五二号

四月二十一日附機密第一〇八号

(註一)

五月十九日附機密第一二二号

(註二)

號貴信ニ關シ寧湘鐵道ニ付テハ小田切ヨリ五月二十五日附書面ヲ以テ頭取ヘ「メーヤース」ト交渉ノ模様ヲ詳報シタルニ付御聞取アリタシ

五月二十九日英國公使ハ本使ノ問ニ對シ「メーヤース」ヨリ小田切ト意見交換ノ始末ヲ聞取リタル旨ヲ述ヘ私見トシテハ彼等ノ案(寧湘鐵道南萍鐵道ハ英國、九江福建線ハ日本、南萍鐵道ニ日本技師ヲ用フル案)ニテ差支ナキ様ニ考

得ル時迄拱手シテ此便ニ打過クルニ於テハ現ニ支那側ト談緒ヲ啓キタル寧湘鐵道問題ノ如キ遂ニ我關係ヲ確実ナラシムルノ時機ヲ失スルノ虞モ可有之一方過般倫敦ニ於テ正金銀行側ヨリ「パース」銀行側ニ支那事業提携ノ問題ニ關シ内々瀨踏ヲ試ミタル結果第一ニ有利ノ事業ヲ捉フルコト必要ニ相見エ候(本件顛末ハ小田切取締役ニ於テ熟知ノ筈ニ付委細同役ヨリ御承知相成度候)ニ付先ヅ別國ノ競争ヲ防キ本鐵道ニ対スル我關係ヲ確実ナラシムルノ目的ニテ差当リ適當ノ日本資本家ノ名義ノミヲ以テ談判ヲ試ミ借款仮契約(概略ノ)ニテモ締結シ置クコト得策カト思考致候勿論巨額ノ資金ハ結局英仏等ノ市場ニテ債券ヲ發行スルノ方法ヲ以テ供給スルノ外途ナカルベク候ニ付必要ニ応シ英仏資本家ヲ加へ得ヘキ余地ヲ予メ留保シ且利權其物ノ価値(例ヘバ收支上有望ナル線路ナルヤ否ヤ等)及借款条件ニハ充分考究ヲ加へ他日英仏市場ヨリ資金ヲ得ルニ故障ナキ様取計置クコト肝要ト存候本件ニ付テハ正金銀行ヨリ小田切取締役ヘ申送リタル義モ有之ヤニ承知致候間同役ノ所見御聞取相成篤ト御研究ノ上別ニ支障無之御意見ナルニ於テハ前記ノ方針ニテ必要ニ応シ同役ヲシテ本店ニ經伺ノ上周財政

企業ニ付テハ他國ノ事業ニ英國ノ參加差支ナキ如ク英國ノ事業ニ他國ノ共同ヲ拒ムニモ及ハサルヘシ支那ニ於テ鉄道ノ勢力範囲ヲ定メントスルノ可否ハ問題ナレトモ現状ニテハ未タ明ニ勢力範囲ヲ定ムル迄ニ進ミ居ラサルカ如シ兎モ角日英両國カ支那ニ於テ政治上ノミナラス經濟上ニテモ成ルヘク共同セソコトハ両国多年ノ希望ニシテ本件ハ其希望ヲ実現スル好機會ナルヘシト信スル旨私見トシテ論シタルニ英國公使ハ一応尤モナレトモ英國ニテハ政治上ノ考慮ノミナラス製造家側ノ意嚮ヲモ參照スル必要アリト云ヘルニ付本使ハ其義ナラハ妥協ノ余地アリトテ我国ニ於ケル機械工業ハ未タ發達セサル為鉄道用材料ノ或物ニ付テハ遺憾ナカラ歐米ト競争スル能ハサル現状ナレハ我ニ於テ供給シ得ル技師枕木等ヲ用ヒ土工ヲ日本人ニ引受ケシムルコトトセハ其他ノ材料供給ニ付テハ英國製造家ヲ満足セシムル方法アルヘシト述ヘタルニ同公使ハ本使ノ所見ヲ能ク了解セルモ何分帰國ノ上相談ヲ遂クル外ナシトテ意見ヲ述ヘサリシモ本使カ本日ノ会話ハ双方共私見ニ過キサルハ勿論ナレトモ本件ノ重要ナル性質ニ顧ミ帝国政府ニ報告スルニ異議ナキヤヲ確メタルニ同公使ハ差支ナシト明言シタリ

次ニ粵湘鉄道、南萍鉄道ニ談及シ本使ハ日英共同問題ノ決定遲延スル間ニ第三者カ或ル権利ヲ占メ日英資本家ノ地位ヲ困難ナラシムル懸念アルコトヲ説キ南萍鉄道ニ對シ英國ノ有スル「クレーム」ハ如何程迄ノ根拠アルモノナルヤヲ尋ネタルニ對シ英國公使ハ蘇州、杭州、寧波鉄道ノ資金其ノ相談アリタルニ付別ニ書面ニテ取極タル訳ニハアラサルモ支那當局者ハ英國ヲ差置キテ他ヨリ資本ヲ得ルコトハ出来サル行懸アレハ若シ斯ル事アラハ英國ハ嚴重ニ抗議スヘキ理由ヲ有ス支那政府モ左迄亂暴ナル事ヲ為スマジクト思料スル旨答ヘタリ

依テ本使ハ現在ノ當局者ノ閑スル限り或ハ然ランモ支那ノコトナレハ何時政變ナシトモ限ラス新タナル當局力行懸ヲ顧ミス他ヘ「コムミット」スルコト絶無ナラサルニ付キ何カ証拠トナルヘキ書類ヲ得ル迄ハ安心ナリ難シトノ小田切ノ懸念モ尤ニ付貴公使帰國ノ上ナラテハ何事モ相談シ難シトノコトナラハ夫レ迄ノ間ニ支那當局者ノ変動モアラハ日本國ハ不取敢他ニ権利ヲ得ラルルコトヲ防クタメニ必要ノ

手段ヲ執リ置キ追テ英國側ノ方針決定後英國資本家ト妥協スルノ余地ヲ存スルモ或ハ万已ムヲ得サル策ナラント述ヘタルニ英國公使ハ或ハ然ラン兎ニ角「メーヤース」ハ四國團關係上十二月末迄ハ他ト正式協商スル能ハサル地位ニ在リト云ヒ福建方面ノ鐵道ニ日本資本ヲ注クニ異議ナキヤトモ問ニ対シテハ異存ナシト答ヘ粵湘鉄道ハ予テ定メアル粵漢鉄道ノ「プラン」ノ一部ナル旨ヲ語レリ

右談話後小田切ヲシテ更ラニ「メーヤース」ニ會見セシメタルニ同人ハ英國公使ヨリ英國ニ於ケル議院及新聞ノ議論ヲ顧慮スルヲ要スルニ付本件ハ特ニ慎重ニ措置スヘク注意ヲ受ケタルコト及英國資本團ハ六月三十日ヲ以テ四國團ヨリ脱退スル積リニテ交渉中ナルコトヲ告ケタリ小田切ハ支那内閣改造アラハ交通總長ニハ多分変動アルヘキニヨリ將來交渉ノ基礎トナルヘキ何等証拠ヲ取り付ケ置ク必要ヲ説キタルニ交通總長ハ之レヲ六月三十日以後ニ讓ルコトヲ求メ其ノ前ニ必要起ラバ如何トノ問ニ対シ其ノ時ハ致シ方ナシト答ヘ粵湘鉄道南萍鉄道英國、九江福建線日本案ニハ英

國ニ於テ異存ナキ見込ナリトテ日本技師ヲ南萍鉄道ニ使用スルトハ英國人技師長ノ下ニ日本技師ヲシテ該線路工事ヲ  
註<sup>1</sup> 前掲七一七文書  
註<sup>2</sup> 前掲六九三文書  
七一九 六月一日 山川正金銀行總支配人ヨリ  
附屬書 五月二十五日附小田切正金銀行取締役ヨリ水  
町同行頭取宛書信  
南京湖南鉄道ニ關スル件

七 華中及華南鉄道交渉ニ關スル件 七一九  
横浜正金銀行

総支配人 山川 勇木

外務省政務局長 阿部守太郎殿

拝啓南京湖南鐵道問題ニ關シ在北京小田切取締役ヨリ先月二十五日付ヲ以テ別紙写ノ通り報告有之候間御参考迄ニ茲ニ供御内覽候 敬具

(附屬書)

写

大正二年五月二十五日

本店

頭取法学博士 水町袈裟六殿

於北京支店

取締役 小田切万寿之助

南京湖南鐵道ニ關スル件  
本件ニ關シテハ向者屢交渉ノ成行ヲ報告シ兼テ卑見ヲ陳述セシニ之ニ對シ貴方ヨリハ何等明載ナル回答ニ接到不致候處過般外務大臣ヨリ帝国公使ニ對シ中英公司ニ於テハ四國團体規約ノ現存スル限り日英共同ハ困難ナリトノ事ナレハ日本側ニ於テハ右ノ共同ヲ為シ得ルマテ拱手シ居ルヘキニアラサルヲ以テ寧湘鐵道南萍鐵道等ノ問題ニ關シ速カニ支

ハ日英協同事業經營ノ問題ニ關シ具体的交渉ヲ開クノ機會アルヤモ計リ難シト語リ仍ホ上海杭州寧波鐵道建設資金ヲ南萍鐵道建設資金ニ流用スル件ニ關シ同國團体ハ早晚前者ハ國有ニ帰スルノ時機アルコトヲ信シ右資金ハ其保存シ置キテ之ヲ他ニ流用スルコトヲ喜ハス新タニ計劃スル鐵道事業ニ對シテハ新款ヲ募集シテ之ニ応スヘシト主張スル旨ヲ語リタルニ付本役ハ寧湘鐵道ノ件ニ關シ支那側ト打合セシ顛末ヲ告ケタル上本件ノ交渉ヲ遷延スルニ於テハ利權ハ旁落ノ虞ナキヲ保シ難ク現ニ安徽鐵道公司ノ如キハ既ニ自由借款ノ許可ヲ申請中ナル趣ナレハ此際日英兩國ニ於テハ速ニ右鐵道ニ對シ或ル利權ヲ獲得シ置クノ必要ナル事ヲ述ヘシニ同人ハ日本側カ既ニ支那側ト交換セル意見ヲ尊重シ之ヲ傷ケサル範囲ニ於テ朱交通總長ト晤談シ其上更ニ針路ヲ協定スヘシト約シ茲ニ手ヲ分チシカ其後同人ハ本役ニ対シ去十日朱啓鈐ト會見セシニ朱ハ別ニ確タル計劃ナク單ニ日本側ト相談シテ敷設計画ヲ作ラレタント答ヘタル旨ヲ告ケ仍未本件ニ關シテハ一應自國公使ノ指揮ヲ乞ヒタル上ナラテハ針路ヲ定メ難キニヨリ左様承知アリタシト申出タルニ付本役ハ之ヲ諒シ置候

那側ト交渉シ他日英仏資本家ヲ加へ得ヘキ余地ヲ留保シテ右ニ關スル借款仮契約ヲ締結シ置クコト可然ト認ムル旨御訓令相成候趣ニ有之候斯方針ニシテ今少シク早ク之ヲ洩聞クコトヲ得ハ事ノ成効如何ハ兎ニ角当地ニ於テ取ルヘキ方法ナキニシモアラサリシモ右訓令ノ到達ハ恰モ中英公司「メヤース」帰燕數日前ニ當リ其際斯カル処置ニ出ツルハ妥当ノ態度ト認ムルヲ得サルヲ以テ其旨公使ニ覆申セシニ公使ニ於テモ同一意見ヲ有セラレ候ニ付「メヤース」ノ帰着ヲ俟テ一應協議ノ上今後ノ方針ヲ定ムルコトニ打合置候次第二有之候

「メヤース」ハ予定ニ遲クルコト一日去五日帰燕致候ニ付早速同人ト會見セシニ同人ハ英國側ニ於テハ四國團体規約ノ關係上同團体ノ存立スル間ハ日英共同ノ議ヲ進ムルニ困難ノ事情有之又同團體關係者ハ大借款未定ノ際他ノ新規事業ニ對シテ十分考慮スルノ余裕ヲ有セス最モ英國側ニ於テハ予テヨリ團體間ノ意見動モスレハ一致ヲ欠キ行動敏活ヲ失スルカ為メ仏獨其他トノ協同ヲ喜バス因テ本年六月末日ニ於テ四國團體脫退ノ通牒ヲ發セントスル底意ナキニアラス加フルニ大借款ハ既ニ一段落ヲ告ケシニヨリ同月以後

其後「メヤース」ト熟談ノ機會ナカリシカ去ル二十一日同人ヲ訪問シテ英國公使ノ態度如何ヲ尋ネタルニ同人ハ公使ノ意見トシテ日英協同南清鐵道經營ノ件ハ高等政治問題ニ屬スルモノナレハ同使來月帰英ノ上外相ト相談ノ上決定スヘシト答ヘタルコトヲ告ケ同時ニ南清ニ於ケル鐵道問題ハ滿洲ニ於ケル同問題ト關聯シテ考慮スヘキモノニアラスヤト暗示シ更ニ寧湘鐵道ヲ敷設シ滬寧鐵道ト粵漢鐵道ヲ連絡スルコトハ自分モ兩三年前ヨリシテ當局者ト相談セシコトアリ杯ト陳述シ同人ノ態度ハ過日會見ノ時ニ比シ多少変化ヲ來セシ如ク被考候ニ付本役ハ之ニ對シ日本ハ滿洲ニ於ケル英國ノ事業ヲ全然拒絶スルノ精神ナキハ彼ノ錦愛鐵道問題ニ微シテ之ヲ知ルヲ得ヘク要ハ南滿洲ニ於ケル我特殊ノ利益ニ影響セサル限り門戸開放ノ主義ヲ取ルモノニシテ此点ニ關シテハ今更口舌ヲ費ス必要ナシ江西ニ於テハ既ニ日本ノ「ヴエステット、インテレスト」アリ萍鄉ノ如キハ正金銀行直接ニ重大ノ關係アリ又同省ニハ私立鐵道公社アリテ既ニ同省各方面鐵道敷設ノ許可ヲ受ケ居ルニ付日本ニ於テ此会社ト結合セントセハ敢テ難事ニアラサルヘク又同省都督ハ目下南萍鐵道ノ敷設ヲ攷々計劃シ既ニ日本ノ資本

家ニモ接近シツツアリト聞ク故ニ日本獨力ヲ以テ江西方面

ノ鐵道敷設ヲ計劃セントセハ之ヲ為シ得サルニアラサルモ

大局ニ鑑ミ日英協同シテ事ニ當ルヲ便トナスカ故協同經營

ノ議ヲ提出セシ次第ナルカ若シ徒ラニ時日ヲ遷延セハ独り

他ノ日本資本家ノミナラス他國ノ資本家モ江西ニ入込ムコ

トトナリ寧湘鐵道ノ最モ必要ナル部分ハ他人ノ手ニ帰スル

ヤモ計リ難シト縷々告知シ引続キ意見ヲ交換セシニ結局英

國側ハ寧湘線ヲ引受ケ日本側ハ九江福建線ヲ引受ケ又日本

ノ萍鄉ニ於ケル利益ヲ尊重シ南萍間ハ日本技師ヲ Put up

スルコトシ而シテ以上全線ヲ同一「システム」ノ下ニ置

キ貨客ノ連絡ヲ因ルコトセハ英國側ニ於テ差支ナカルヘ

シトノ事丈ハ判明致候（以上ハ「メヤース」ノ私見タルコ

ト無論ナリ）最モ同人ニ於テハ自國公使ニ憚カルモノアル

カ如ク前記計劃ヲ日本側ノ提案トシテ提出スルコトヲ希望

セシ故本役ハ之ニ對シ本問題ハ從來一伍一什自國公使ニ具

申シアレハ今日會見ノ始末ニ關シ同一手続ヲナシ其承認ヲ

得タル上ナラテハ何等ノ処置ヲ為ス能ハサル旨相答ヘ置直

チニ委曲帝國公使ニ面稟セシニ不日英國公使ト意見ヲ交換

スヘシトノ回示ヲ得候兩使會見ノ結果ハ聞込次第更ニ可及

御報告候

本件ノ現状右ノ通リニ有之候處「メヤース」ノ語氣ニ微ス

ルニ英國ハ本年六月ヲ期トシ四國團體脫退ノ希望アルモ未

タ之ヲ實行スルノ時機ニ達セス而カモ仮獨ト分離シテ日本

ト提携スルコトハ其間ニ十分ノ根拠ナカル可ラス最モ欲ス

ル所ハ南清鐵道事業ヲ自國ノ獨力ヲ以テ經營スルコトニ在

ルモ日本ニ於テハ着々其方面ニ對シ計劃ヲナシツツアリ特

ニ九江南昌ニハ日本ノ資本既ニ注入セラレ又萍鄉ニ對シテ

ハ本行ニ於テ利益關係ヲ有スルカ為メ全然之ヲ無視スルコ

トモ出来ス一面万不得已場合ニハ依然独仮ノ提携ヲ繼續シ

テ事業ヲ經營セントスルノ底意モナキニアラサルヘシト被

察候斯ク事情複雜ノ下ニ在テハ何人ト雖モ左顧右眄シテ決

然タル態度ヲ表明スル能ハサルハ自然ノ勢ニ有之候得共去

迪本件ハ此眞ニシテ荏苒經過センカ如何ナル枝節ヲ生スル

ヤモ難計候ニ付此際本邦ニ於テハ各般ノ事情ヲ審査シテ適

当ナル判断ヲ下シタル上具体的ニ英國側及支那側ニ向テ交

渉ヲ開始スルコト最モ緊要ニ可有之時機逸失ノ不可ナルハ

何事ニ於テモ同様ニ有之候得共本件ニ於テハ特ニ其緊要ヲ

感シ候ニ付今後ノ方針ニ關シ各方面ト至急御打合セノ上何

分ノ儀御電示相成度不勝切望候

右御報告旁申進候 敬具

大正二年六月三日  
本店  
頭取法学博士 水町袈裟六殿  
於北京支店

取締役 小田切万寿之助

南京湖南鐵道ニ關スル件

寧湘線ヲ英國ニテ江西福建線ヲ日本ニテ經營

スル案ヲ基礎トシテ商議開始差支ナキヤ小田

切取締役ヨリ請訓アリタル件

附屬書 六月三日附小田切正金銀行取締役ヨリ水町同

行頭取宛書信

南京湖南鐵道ニ關スル件

第四六四号

大正二年六月九日

横浜正金銀行

頭取代理 山川勇木（印）

外務省政務局長 阿部守太郎殿

押啓南京湖南鐵道ニ關スル小田切取締役報告到達仕候間御参考迄ニ效ニ供御内覽候 敬具

（附屬書）

写  
七 華中及華南鐵道交渉ニ關スル件 七一〇

此地方ニ於テ英國独リ他國ノ資本ト共同セサル可ラストノ事ハ慎重ニ考慮スヘキ問題ニシテ本国ニ於テハ近來此種ノ議論起リシツアルカ之ニ対シテハ不問ニ附シ難キ事情アリ一面英國ニ於テハ本問題ハ政治上ノ関係ノミナラス製造家側ノ意向ヲモ参酌スルコト必要ナルヘケレハ何ツレ帰國ノ上当局者ト熟議スル所アルヘキ旨ヲ述ヘタルニ対シ帝国公使ハ亦私見トシテ滿洲ニ於ケル帝国ノ政策ハ決シテ絶対ナル排他的ノモノニアラサルモ本邦ハ同地方ニ於テ特殊ノ利益関係ヲ有スルヲ以テ軍事上政治上ノ理由ヨリ他國ノ資本ヲ入ルルコトヲ好マサル点アルト同時ニ單純ナル經濟的企业ニ対シテハ必シモ他國ノ資本ヲ排斥スルモノニアラサルコトハ錦愛線ノ例ニ徵シ明白ナル所ナリ而シテ日英両国カ支那ニ於テ政治上ノミナラス經濟上ニ於テモ可成共同セシコトハ多年両國ノ互ニ希望スル所ニシテ本件ハ此希望ヲ実現セシムルノ好機会ナルコトヲ信スルト同時ニ英國製造家側ニ対スル顧慮ニ關シテハ日本ハ斯業ニ就テハ未タ歐米ト競争シ得ル域ニアラサレハ充分妥協ノ余地アル旨ヲ答ラレ仍ホ粵湘線ニ閑シ日英共同問題決定遷延スル間ニ第三者カ或利權ヲ獲得シ日英資本家ノ地位ヲ困難ナラシムル懸念

ナキニシモアラサレハ英國側ニ於テ同公使帰國諸事打合セノ上ナラテハ共同問題進行セシメ難シトノ事ナラハ本邦ハ第三者ノ利權獲得ヲ防止ゼンカ為メニ又現任支那政府當局者ノ更迭ヲ見サル事前ニ於テ追テ英國資本家ト妥協シ得ルノ余地ヲ保留シ鬼ニ角何等カノ証拠ヲ取置クコト或ハ不得已策ナラント告ケラレタルニ英國公使ハ南萍線ニ閑シ英國側トノ關係ハ蘇州杭州粵波鐵道資金ヲ流用セントノ相談ニ起因シ其後モ他ノ問題ニ関連シ屢英國側ニ相談アリタル事情アルニ付仮令書面ニテ取極メタル事ニハアラサルモ支那側ニ於テ英國ヲ差措キタル処置ニ出テシカ英國ハ嚴重ナル抗議ヲ為スヘキ理由ヲ有スルモノナリト語リ仍ホ福建方面ノ鐵道ニ対シ本邦カ資本ヲ投スル事ニ閑シテハ別ニ異存ナキ旨ヲ語リタル由ニ有之候

其後本役ハ公使ノ内意ヲ受ケ「メヤース」ト會見セシニ同人ハ

去二十一日貴下ト會見後自國公使ニ対シ事ノ委曲ヲ告ケタルニ其前面晤セシ時ニ比シテ公使ノ態度冷靜トナリシハ喜ハシキ次第ニシテ其節公使ハ單ニ本国ニ於ケル議院及新聞ノ本問題ニ閑スル議論ハ顧慮スヘキ要アルヲ以テ

事ノ進行上特ニ慎重ニ措置スヘシトノ注意ヲ受ケタルニ過キス仍ホ近頃英國ヨリノ内報ニ拵レハ英國資本團ハ六月末日ヲ以テ四國團ヨリ全然脱退シ同日以後ハ自由行動ヲ取ル考ニ目下独、仮ト交渉中ナルカ独、仮ハ果シテ之ヲ承諾スルヤ否不明ナレトモ仮リニ之ヲ承諾セサルモ

ノトスルモ六月末日通牒発送ノ結果来年一月後ハ英國ハ団体ヨリ脱退スルコトナリ一面六国借款ヨリ実業借款ヲ無条件ニテ分離スルコトトナレハ今後ノ行動ハ何等ノ束縛ヲ受ケシシテ相談上便宜多カルヘシト告ケタルヲ以テ本役ハ支那現内閣ノ改造アル場合ニハ現任交通總長ハ多分辭職スルコトトナルヘク後任同總長ノ誰ナルカ又其方針如何ナルヘキカハ未定ナルモ折角現任同總長トノ間ニ折衝ヲ重ねタル事ナレハ将来ニ対シ交渉ノ基礎トナルヘキ或証拠ヲ取置クコト現在ノ急務ナルヲ説キタル上南昌ヨリ武昌ニ達スル一線モ亦考慮中ニ加ヘ置クノ必要ナルコトヲ附言セシニ同人ハ私見トシテ

本件ニ閑スル一切ノ事項ハ六月末日以後ノ相談ニ譲リタク而シテ其前ニ措置スヘキ必要事情発生セン乎便宜処置ノ方法アルナラン仍ホ向者相談シタル粵湘線（南萍線ヲ

含ム）ハ英國ニ於テ九江福建線（武昌ヲ起点トスルモ亦可ナリ）ハ日本ニ於テ引受ケ且南萍線ハ英國人技師長ノ下ニ日本技師ヲ以テ該線路工事ヲ担任セシムル条件ニテ総テノ相談纏マラハ好都合ナリ

ト相語リ候

以上所載ノ大要ハ帝国公使ヨリ其筋ニ發電相成候由ニ付既ニ御承知相成候事ト存候右ノ如ク英國公使ニ於テハ帰國後本国政府ト打合セノ上ナラテハ政府ノ意見トシテ何等明言スル能ハサル由ナルモ「メヤース」ト本役ノ閑スル限り充分ニ意見ヲ交換シ場合ニ依リテハ具体的の交渉ヲ開始スルモ差支ナキコトハ「メヤース」ノ語氣ニ照ラシ明白ニ有之候ニ付本邦各方面ニ於テ異議ナキ場合ニハ是非此機會ヲ趁ヒ兩人民ニ交渉ノ基礎丈ニテモ商定致置度存候就テハ粵湘線中南萍線丈ケハ日本技師ヲ傭聘スルコトヲ条件トシテ全線ヲ英國ノ經營ニ譲リ日本側ハ江西福建線ヲ經營スルコト（勿論資本ノ幾部分ハ英國若クハ仏國ニ於テ募集ス）ヲ基礎トシテ交渉開始差支ナキ乎將タ粵湘線ノ件ニ閑シテハ從来日本側ニ於テ努力少ナカラサルニ付日本ハ同線ニ対シテモ利益均霑ヲ主張スヘキ乎抑モ他ニ何等ノ良案アル乎其他附隨

七 華中及華南鉄道交渉ニ関スル件 七二一

八二四

ノ条件等ニ関シ大体ノ方針至急御決定ノ上御電報相成候様致度候但シ茲ニ予メ声明ヲ要スルモノ有之其ハ余ノ儀ニアラス從来本役カ支那側ト交渉セシハ主トシテ粵湘線敷設ニ

関スル問題ニシテ江西福建線ノ件ハ或時偶然之ニ及ヒタルニ過キス去レハ仮令英國側ニ於テ英ハ粵湘線ヲ取り日ハ江西福建線ヲ取ルコトニ同意スルモ果シテ支那側ニ於テ日本

ノ請求ニ応スル決意ヲ有スルヤ否ヤ不明ナルカ（支那側ニ於テ日英協同シテ粵湘線ニ放資スルコトニ異議ナキハ既報

ノ如シ）若シ支那側ニ於テ我請求ヲ拒絶スル場合ニハ我ハ退テ粵湘線ニ拠ラサルヲ得サルコト可相成而カモ英國ニ我ハ何等獲ル所ナクシテ英亦容易ニ手ヲ下ス能ハサルノ異観ヲ呈スヘク是レ最モ考慮ヲ要スル点ナルカ然ラ当國ノ形勢ヲ考フルニ我ニ於テ江西福建線建設ノ希望ヲ達セントセハ今日ハ之ヲ交渉スルノ最良時機タルヲ失ハサルヘク一面英國カ我ニ相当ノ援助ヲ与フルコトヲ期待シ得ヘキニヨリ全然無謀ノ計画ト冷笑シ去ルヲ得サルヘク而カモ此時機ヲ逸センカ再ヒ之ヲ把握スルコトハ容易ニアラサルヘシト被察候本件全体ニ對スル今後ノ方針御商量ノ際バ前記ノ事情

御參酌相成度候  
右申進候 敬具

七二一 六月十二日

在中國伊集院公使宛（牧野外務大臣ヨリ）（電報）

粵湘線問題ニ關シ南昌南京間ヲ英國側南昌萍鄉間ヲ日本側ニ於テ引請クルコトニ交渉方訓

令ノ件

第三二〇号

貴電第四五二号ニ關シ

福建九江線ハ粵湘線南萍線等ト異リ目下交渉中ニ属スルモノニアラズ又其前途モ予測ニ難ク且後段述ブルガ如キ已往ノ成行モアルカ故福建線ノ為折角現在問題ト成リ居レル粵湘線等ヲ英國ニ委ヌルハ得策ナラズ仍テ福建線ハ此際全然別問題トナシ即チ當面ノ問題ハ粵湘線及南萍線ニ留メ又南昌ヲ起點トスル他ノ線ハ他日相談ノ問題トシ現下ノ案件トシテハ粵湘線ヲシテ南萍線ヲ通過セシムルコトシテ（六月三日付正金頭取宛小田切來信ニハ粵湘線ハ南萍線ヲ含ム旨明記シアリ）之ヲ南昌ニ於テ一段ニ分チ南潯線及萍鄉トノ關係上南昌萍鄉間ハ日本側又滬寧線トノ關係上南昌南京

第四八一号

間ハ英國側ニ於テ引請クルコト致度ニ依リ右ノ趣意ニテ小田切ラシテ可然英國側へ交渉セシメラレ其結果電報アリ度尚御承知ノ通リ福建江西線ニ付テハ往年福建不割讓條約ニ關聯シ他線ト共ニ我ニ於テ支那側ニ對シ交渉シタル行掛リモアリ且其次第八明治四十年六月十一日付機密第三四号本省往信添付乙号写ノ通リ英國政府ヘモ通報シアルニ付「メーヤース」ニモ右ノ趣ヲ含ミ置カシムル様致度シ若シ又「メーヤース」トノ話合暇取ル場合ニ一方現交通總長ノ地位ニ変動ヲ來タスカ如キコトアラバ是迄ノ折衝ヲ水泡ニ帰スル憂アルベク且有吉来信ニ拠レハ上海某外商ト江西派遣員トノ間ニ南萍線借款仮契約成立シタルヤノ情報モ有之旁粵湘線ニ付不取敢将来我交渉ノ基礎トナルヘキ何等ノ証拠書類ヲ小田切ニ於テ支那側ヨリ取付ケ置クコトヲ得バ妙ナルベシト思考ス

「メーヤース」ハ此際此ノ問題ヲ議シ又ハ右日本側ノ提議ニ關シ意見ヲ表スル能ハストテ其理由トシテ英國公使ガ出發前同人ニ語リタル所（往電第四五二号同公使本使ヘノ内話ト同様ニ付略ス）アルニ付同公使ガ倫敦ニテ外務當局ト談合ノ結果ヲ待タサルヘカラス同公使ハ出發前朱交通總長タリ

七二二 六月十九日 在中國伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛（電報）  
粵湘線ヲ区分シ南萍線ハ日本側引請トナス提議ニ對スル「メーヤース」及朱交通總長ノ意見等報告ノ件

寧口本來ノ目的ノ通蘇杭甬鐵道ニ使用スル方可然トノ意見ヲ懷ケル模様ナリシニ付同公使ハ右資金ノ用途問題ヲ決定スル迄ハ支那政府ハ南萍鐵道資金ニ關スル問題ヲ決定スル能ハサルモノナルコトヲ述べ念ヲ押シ置キタル由ナリ就テハ自分トシテハ此際何分ノ意見ヲ述べ難キコトハ前述ノ如キモ若シ駐英日本大使ニ於テ英國外務省ト交渉ヲ試ミラルニ於テハ恰モ「サー、ジョン、ジョルダン」モ帰國中ノコトナレハ本件ノ決着ニ便宜ナルヘシト考フル旨答へタリ依テ小田切ハ自分モ朱ニ面談スベシトテ分レタル後右会話ノ要領ヲ覺書ニ認メ「メーヤース」ニ示シタルニ其通ニ相違ナキモ「サー、ジョン、ジョルダン」ヲ「メンシモン」スルコトハ之ヲ避ケタキ旨申出タルニ付小田切ハ先方希望ノ通改作ノ上覺書ヲ交付シタルニ同人ハ之ヲ英國ニ送付スシト云ヒ居タル由

六月十九日小田切ハ朱交通總長ニ面会シ先般來「メーヤース」ト意見交換ノ次第ヲ打明ケ朱ノ意見ヲ質シタルニ朱ハ福建鐵道ニ關シテハ何等「リマーク」セサリシモ寧湘鐵道全線ヲ日英共同資本ヲ以テ敷設セントノ意見ハ始メヨリ毫モ変ハラサルニ付今更区域ヲ分シ如キ提議ハ同意スル能

バス（但シ朱ハ英國側カ同意セサル場合ニハ日本側ノミニ之ヲ与フトノ意ハ示サス）又南萍鐵道ハ仮令他ノモノカ（日本人運動者ヲモ含ム）地方ニ於テ如何ナル取極ヲナストモ該線ハ支那鐵道幹道ノ一ニ付中央政府ハ断シテ之ヲ認可セスト明言シ蘇杭甬鐵道ノ資金ハ矢張蘇杭甬鐵道ニ使用スル積リニシテ江蘇省ノ方ハ既ニ同意ヲ得浙江省ノ方ハ事情アリテ未タ意向ヲ尋ネ得サルモ是又何トカ運フヘキ見込ナリト述ヘ小田切ガ近來各地ニ於テ統出スル鐵道借款ニ用意念ヲ示シタルニ對シテハ種々ノ運動アルモ中央政府ハ断シテ漫リニ許可セサルヘシト言明シ「ロード、フレンチ」ノ錦愛鐵道運動ノ復活ヲ否認シ通州ヨリ熱河ヲ經テ更ニ北方ヘノ線路踏査ハ事實ナルモ之ハ京奉鐵道雇外国人ガ高給ヲ得ナガラ別段用事モ為シ居ラサルニ付之ヲ利用スル為測量セシメ居ルニ過キス何等敷設ノ成案アルニアラス又信陽浦口鐵道借款ハ金額約三百万磅利子五分手數料五分五厘ニテ「ブリテン、チャイニース、コルボレーンモン」ト協議済ミタルニ付追テ時機ヲ見テ國會ニ提出スル積ナリト語レル由

前述覺書ハ郵送ス

千四百 六月二十四日 在中國伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

寧湘鐵道ニ關スル小田切取締役ト朱交通總長  
ノ談話要領覺書「メーヤース」ニ交付ノ件

附屬書 六月二十一日小田切ガ「メーヤース」ニ交付シ  
タル右覺書写

（七月一日接受）

機密第一千四百号

大正二年六月廿四日

在清國

外務大臣男爵 牧野伸頤殿  
特命全權公使 伊集院 彥吉

本月十九日小田切正金取締役及交通總長朱啓鈞ト會見鐵道ニ關スル談話ヲナシタル始末ハ本月十九日發第四八一號拙

電末段ニ於テ詳細報告致置候處小田切氏ハ右會見ノ次第ヲ「メーヤース」氏ニ談話シ尚為意備忘錄トシテ昨[一]九[一]四[一]同人ニ交付致置候由ニ有之候右備忘錄写御参考迄別紙トシテ進達致候間御查閱相成度候 敬具

（附屬書）

Copy

七 華中及華南鐵道交涉ニ關スル件 千四百 千四百

ノ金證報告並回取締役ノ意見轉報ノ件

千四百 六月二十八日 山川正金銀行頭取代理ヨリ  
牧野外務大臣宛

寧湘鐵道ニ關スル小田切取締役ト交通總長等ニ

八一七

附屬書

六月二十日附小田切正金銀行取締役ヨリ水町

同行頭取宛

右鉄道ニ関スル件

第五二九号

大正二年六月廿八日

横浜正金銀行

頭取代理 取締役 山川勇木

外務大臣男爵 牧野伸頭殿

拝啓南京湖南鉄道ニ關シ弊行小田切取締役ヨリ別紙写之通  
リ報告有之候間茲ニ同封供御内覽候 敬具

(附屬書)

大正二年六月廿日

本店

頭取法学博士 水町袈裟六殿

於北京支店

取締役 小田切万寿之助

本件ニ關シ去ル十四日中英公司「メヤース」ト会見セシ始

ルニ同総長ハ差支ナシト相答へ候但シ英國側ニ於テ日英合  
弁ヲ承諾セサル場合ニ於テ日本側ノミ之ヲ引受ケシムルコ  
トニ閣シテハ同総長ハ何等明言又ハ暗示スル所ナク又「メ  
ヤース」ト商議ノ成行ヲ叙述セシ際江西、福建鉄道ノ事ニ  
及ヒシカ之ニ閣シ同総長ハ何等批評ヲ試ムル所無之候

仍ホ同日南萍鉄道ハ日本人及外国人ニ於テ資金供給引受ノ  
運動ヲナシシアリトノ確報アリ又滿洲地方鉄道ニ關シ或  
外国人モ亦運動中ナリトノ風説アルカ之ニ對スル中央政府  
ノ意向如何ト尋ネタルニ朱総長ハ

南萍鉄道ハ東西貫通ノ幹線ナレハ江西省ニ於テ仮令之ヲ  
建設セントスルモ中央政府ニ於テハ容易ニ之ヲ承認セサ  
ルヘク又滿洲地方鉄道ニ關シテハ交通総長トシテハ目下  
何等計劃スル所ナシ近來各国人（信用薄弱ナル）ハ種々  
ナル運動ヲ交通部ニ試ミシシアルカ彼等ニ對シテハ自分  
ハ之ヲ重視セヌ都テ部員ヲシテ應対セシメツアリ目下  
政府ハ十分慎重ノ態度ヲ取リ信用確実ナルニアラサレハ  
敢テ相手トナササル方針ヲ採リ居レリ

ト答ヘ候本役ハ更ニ進ンテ通州ヨリ熱河ヲ經テ北滿洲ニ通  
スル鉄道測量ノ事ニ關シ尋ネタルニ同総長ハ

末ハ前報ヲ以テ委曲申進置候處右ニ關シ昨十九日朱交通總  
長ヲ訪問シ「メヤース」トノ交渉成行ヲ述ヘテ同総長ノ意  
見ヲ叩キタルニ朱ハ之ニ答フル様

寧湘鉄道ハ揚子江以南ニ於ケル東西貫通ノ幹線ナレハ之

ヲ区分スルノ提議ニハ同意ヲ表スル能ハス全線ヲ通シテ  
日英共同資本ヲ以テ建設（日英ノ条件カ他國ノ条件ト同  
シキトキハ）セントノ当初ノ意見ハ今猶ホ変更ヲ加ヘサ  
ル所ナリ但シ日英合弁ト為ス事ニ就テハ予メ声明スルヲ  
要スルコトアリ他ナシ即チ安徽鐵道買收資金及萍鄉湘潭  
間鐵道改築資金モ右寧湘鉄道借款ヨリ支出スルヲ要スル  
コト是ナリ前者ハ在来ノ私立会社ニ属シ周學熙ノ一族之  
ニ關係シ且其大資本家ニシテ既ニ多少ノ土工ヲ完成セシ  
カ聞ク所ニ拠レハ同公司ハ礼和洋行、瑞記洋行等ニ對ス  
ル物品購入未払ノ債務アリト云フ又後者ハ運炭鐵道トン  
テ前年既ニ建設ヲ了セルモ橋梁ノ如キハ木造ニシテ全体  
ノ工程良好ナル狀態ニアラサルカ為メ改築ヲ要スル部分  
少カラス

之ニ對シ本役ハ委曲了承セルカ貴見ノ次第ハ之ヲ「メヤー  
ス」ニ語リ又本国資本家ニ電報シ差支ナキヤト反覆尋ねタ

右ハ既ニ「メヤース」ト協議纏マリ借款額約三百万磅利  
率年五分手數料五分五厘ト決セシカ追テ時機ヲ見テ国会  
ニ提出スル旨ナリ

ト答ヘ候仍ホ本役ハ寧湘鐵道借款ハ龐秦予海鐵道借款ヲ標  
準トスルコトシテ差支ナキヤト尋ネタルニ同総長ハ  
同借款契約ヲ以テ交渉ノ基礎トナスコトハ差支ナシ  
ト答候当日朱総長ノ應対ハ言語極メテ明晰ナルコトヲ感得  
セシカ昨十九日夜李盛鐸（日支實業聯絡ヲ圖ルノ目的ヲ以  
テ不日孫寶琦ト共ニ渡日スル旨ナカルカ南萍鐵道問題ニ關シ  
テハ從來同人ト交渉セシコトアリ其始末ハ前報ノ通リ）ニ  
面会セシニ其語ル所ニ拠レハ去ル十六日袁大總統ニ面会セ  
シ際南萍鐵道ハ日英合弁ヲ以テ建設スルヲ可トストノ意見  
ヲ述ヘシニ袁大總統ニ於テハ至極贊成ナリト答ヘタル由又

翌十七日梁士詒ハ（梁ハ財政次長ニシテ目下同総長代理タ  
七 華中及華南鉄道交渉ニ關スル件 七二四

ルカ前清時代ニ郵伝部ニ奉職セシ結果今猶交通部トハ密接ノ關係ヲ有シ又鐵道ニ關シテハ事實上實權ヲ掌握セル鐵路司長葉恭綽ト離ル可カラサル因縁アルモノノ如ク當國ノ鐵道問題ハ梁葉ノ意見ニ左右セラルト言フモ敢テ過言ナラス）同人ニ對シ南萍鐵道ヲ日英合弁トナスコトニ同意ヲ表シタル上大總統ハ同鐵道問題ハ交通部ヲシテ交渉ノ衝ニ当ラシムル意向ナリト語リシ由ニ有之仍ホ同人ハ語ヲ繼キ江西省ニ於テモ南萍鐵道敷設ノ議アルカ同省ハ果シテ交通部ニ於テ之ヲ管掌スルコトヲ承諾スルヤ否疑ハシク仮リニ同省議會ニ於テ異議アリトスルモ中央地方ノ間ニ自然和衷商弁ノ道アルヘク何レニシテモ本件ニ關シ日英兩國ノ為メニ尽力シ両國ノ希望ヲ達スルコトニ咨ナラサルヘシト語リ候同人ノ語氣ニ徴スルニ交通部籌湘鐵道ノ計劃ハ之ヲ熟知セサル模様ナリシニヨリ本役ハ同人ニ對シ之ヲ密告シ仍ホ同人将来ノ援助ヲ請求致置候昨日朱交通總長トノ會見ニ於テ同總長ノ言ノ明晰ナリシハ畢竟右ノ如ク袁、朱、梁ノ間ニ於テ籌湘問題ニ對スル意見ヲ決定セシ結果ナリト後ニテ被思知候

支那政府當局者ノ態度前述ノ通リナレハ今日日本側ニ於テ

方ヨリ資金供給方ニ關シ周財政總長ト會談スル所アリタルニ周ハ英國カ揚子江一帶ニ於テ有スル重大ナル利害干係ニ顧ミ之ヲ度外ニ置クヲ得サルヲ以テ右ハ日英共同事業ト致度旨ヲ述ヘ尚朱交通總長モ右日英共同經營ニ大体ニ於テ異存ナキ模様ニテ又英國公使ハ伊集院公使ノ説明ニ依リ本鐵道ハ両國資本家共同事業トシ差當リ適當ノ予備的行為ヲ取リ利權ノ喪失ヲ防止シ置クコトニ贊同ノ意ヲ表シタルモ更ニ四月五日ニ至リ英國公使ハ四國團ノ關係モアリテ今直ニ話ヲ進ムルコトハ聊カ困難ナル旨伊集院公使ニ申出タルガ蓋シ英支組合(British & Chinese Corporation)側ノ意向ハ四國團體規約現状ノ保ナル以上ハ支那ニ於ケル一般又ハ特種鐵道事業ニ關スル日英共同ハ實行ノ余地ナシト云フニ有之候依テ四月廿一日帝國政府ハ伊集院公使ニ訓令スルニ英國側ノ意向如斯ナルニ於テハ其共同ヲ為シ得ル時迄拱手シテ此保ニ打過クルニ於テハ現ニ支那側ト端緒ヲ開キタル寧湘鐵道問題ノ如キ遂ニ我關係ヲ確実ナラシムルノ時機ヲ失スルノ虞モアリ一方過般倫敦ニ於テ正金銀行側ヨリ「パス」銀行側ニ支那事業提携ノ問題ニ關シ内々瀕踏ヲ試ミタル結果第一ニ有利ノ事業ヲ捉フルコト必要ト認メラル、

単独ニ南萍鐵道ヲ經營セントスル運動ハ恐ラク画餅ニ帰スヘキニヨリ寧ロ當方最初ノ考案ノ如ク日英協同シテ籌湘鐵道引受ヲ企ツル方勞少クシテ功多キ歟ト被存候ニ付貴方ニ於テ優遇ヲ与ヘラレ以テ我計劃ヲ贊襄セシムル様御尽力ニ於テ優遇ヲ与ヘラレ以テ我計劃ヲ贊襄セシムル様御尽力アランコト不勝希望候

右申進候 敬具

七二五 七月一日

牧野外務大臣ヨリ  
在英公使宛

寧湘鐵道問題ニ關スル日英交渉經過概要ニ付

通報ノ件

機密送第八三号

本年一月廿八日付機密送第九号ヲ以テ及通報置候南昌萍鐵道ニ對スル白耳義側借款談ハ其後立消ノ姿トナリ同鐵道ニ關スル日英間共同出資ノ交渉モ亦其保ト相成居リタル處偶々三月初旬支那側ニ於テ寧湘鐵道（南京ヨリ湖南ニ至ルモノ）敷設ノ計画ヲ立テ居レル趣情報ニ接シタルヲ以テ小田切正金銀行取締役ハ右地方ニ於ケル鐵道事業ニ對シ我

ニ付先ツ別國ノ競争ヲ防キ本鐵道ニ對スル我關係ヲ確実ナラシムルノ目的ニテ差當リ適當ノ日本資本家ノミノ名義ヲ以テ談判ヲ試ミ借款仮契約（概略ノ）ニテモ締結シ置クコト、致度勿論巨額ノ資金ハ結局英仏等ノ市場ニテ債券ヲ發行スルノ方法ヲ以テ供給スルノ外途ナカルヘキニ付必要ニ応シ英仏資本家ヲ加ヘ得ヘキ余地ヲ予メ留保シ且利權其物ノ価値（例へハ收支上有望ナル線路ナルヤ否ヤ等）及借款条件ニハ充分考究ヲ加ヘ他日英仏市場ヨリ資金ヲ得ルニ故障ナキ様取計置クコト肝要ナレハ前記ノ方針ニテ必要ニ応シ小田切取締役ヲシテ本店ニ經伺ノ上周財政並ニ朱交通總長トノ間ニ懇談ヲ繼續進行セシムルコトニ致度旨ヲ以テシタルニ六月一日伊集院公使ヨリ右ニ對シ別紙甲号写ノ通「メーヤース」小田切間ニ詰合タル寧湘鐵道、南萍鐵道ハ英國ニテ引請ケ九江福建線ハ日本ニテ引請ケ而シテ南萍鐵道ニハ日本技師ヲ用フルノ案ニ付電報有之尚右ニ關シ小田切取締役ヨリモ正金本店へ別紙乙号写及丙号写ノ通詳細報告有之候仍テ六月十二日更ニ伊集院公使ニ對シ福建九江線ハ寧湘線、南萍線等ト異ナリ目下交渉中ニ屬スルモノニアラス又其前途モ予測シ難ク且已往ノ成行モアルカ故福建線

ノ為折角現在問題ト成リ居レル寧湘線等ヲ英國ニ委ヌルハ  
得策ナラスト認メラル、ニ付福建線ハ此際全然別問題トナ  
シ即チ当面ノ問題ハ寧湘線及南萍線ニ留メ又南昌ヲ起點ト  
スル他ノ線ハ他日相談ノ問題トシ現下ノ案件トシテハ寧湘  
線ヲシテ南萍線ヲ通過セシムルコトトシ（別紙丙号正金本  
店宛小田切取締役來信ニハ寧湘線ハ南萍線ヲ含ム旨明記シ  
アリ）之ヲ南昌ニ於テ二段ニ分チ南潯線及萍鄉トノ關係上  
南昌萍鄉間ハ日本側又滬寧線トノ關係上南昌南京間ハ英國  
側ニ於テ引受クルコトニ致度ニ依リ右ノ趣意ニテ小田切取  
締役ヲシテ英國側ヘ交渉セシメ又福建江西線ニ付テハ往年  
福建不割讓條約ニ關聯シ他線ト共ニ我ニ於テ支那側ニ對シ  
交渉シタル行掛モアリ且其次第八明治四十年六月中英國政  
府ヘモ通報シアルニ付（明治四十年六月十一日付機密第十  
一号貴館宛本省往信附屬乙号写参照）「メーヤース」ニモ  
右ノ趣ヲ含ミ置カシムル様致度旨訓令スルト共ニ若シ「メ  
ーヤース」トノ話合暇取ル場合ニハ一方現交通總長ノ地位  
ニ変動ヲ来スカ如キコトアラハ是レ迄ノ折衝ヲ水泡ニ帰セ  
シムル憂アルヘク且頃日上海某外商ト江西省派遣員トノ間  
ニ南萍線借款仮契約成立シタルヤノ情報モアリ旁以テ寧湘

線ニ付不取敢我交渉ノ基礎トナルヘキ何等ノ証拠書類ヲ小  
田切取締役ニ於テ支那側ヨリ取付ケ置クコトヲ得ハ妙ナル  
ヘキ旨ヲモ注意シ置キタルニ同月十九日伊集院公使ヨリ右  
ニ対シ別紙丁号写ノ通電報有之從テ本件ハ追テ貴地ニ於テ  
問題トナルコト可有之候ニ付不取敢本件今日迄ノ成行及通  
報候条十分御研究置相成度此段申進候 敬具  
追而前記ノ如ク帝国政府ニ於テハ六月十二日伊集院公使  
ニ宛テ寧湘線ヲ南昌ニ於テ二段ニ分チ英國側ハ南昌南京  
間ヲ日本側ハ南昌萍鄉間ヲ引請度旨申送リタルカ別紙丁  
号写中ニハ小田切取締役ハ「メーヤース」ニ対シ同鐵道  
ヲ三段ニ分シコトニ致度旨ヲ提議シタル趣相見エ居候處  
右ハ萍鄉湖南間ヲ一段ニ數ヘタルモノニシテ其實萍鄉長  
沙間ハ既成線ナルニ付所謂第三段ナルモノガ萍鄉長沙間  
ヲ指スモノトスレハ小田切取締役ノ申出ハ聊カ了解シ難  
ク存セラレ候間右ノ点ハ同取締役ニ及問合置候条右様御  
含置相成度尚委細ハ別紙附図ニ就キ御承知相成様致度此  
段申添候也

註 別紙甲乙丙及丁ノ各号省略ス右甲号ハ伊集院來電第四五  
二号（七一八文書）、乙号ハ五月二十五日付小田切正金

銀行取締役ヨリ水町同行頭取宛報告（七一九文書附属  
書）丙号ハ六月三日付同上（七二〇文書附属書）、丁号ハ  
六月十九日伊集院公使発牧野外務大臣宛來電第四八一號  
(七二二文書)ノ各写ナリ

七二六 七月十二日 牧野外務大臣ヨリ  
在英公井上大使宛

寧湘鐵道問題ニ關スル日英交涉經過二付追報  
ノ件

政機密送第九〇号

本件ニ關シ七月一日付機密送第八三号並七月七日付機密送  
第八六号ヲ以テ及通報置候處今般右ニ關シ小田切取締役ヨ  
リ正金本店ニ詳報有之右ニ拵レハ御承知ノ通リ帝國政府ニ  
於テ義ニ伊集院公使ニ對シ寧湘線ヲ南昌ニ於テ二段ニ分チ  
日英兩國之ヲ分担スルコト致度旨ヲ申送リ置タルニ小田  
切取締役ガ「メーヤース」トノ會見ノ節同鐵道ヲ三段ニ分  
チ第三段トシテ萍鄉湖南線ヲ加ヘタルハ同取締役ニ於テ英  
國ガ湖南湖北ニ於ケル鐵道資金供給ニ關シ優先權ヲ有スル  
ニ鑑ミ且同取締役ト「メーヤース」トノ從來ノ交渉成行ニ  
顧ミ当然ノ結果ト心得タルニ拵ルモノナル趣ニ有之又「メ

ハ四国團体ノ關係アリ支那側ニテハ蘇杭甬鉄道公債資金ノ  
關係アレハ本件ハ此等問題ノ解決ヲ俟テ具体的交渉ヲナス  
コトニ詰合纏マリタルニ依リ要スルニ本鉄道ハ最早日英両  
國以外ノ資本家カ一指ヲモ染ムルヲ得サル事態ニ達シタル  
モノナルヲ以テ成ルヘク速ニ日英両國政府間ニ妥協方ヲ希  
望スル旨ヲ述べ転シテ朱交通總長ハ九江南昌國有ノ意向  
ヲ抱ケル處之ニ対スル我方ノ意見如何ト問ヒ更ニ寧湘線日  
英合辦ノ運トナラハ日本側分担資金ノ調達方法如何ト質問  
シタルカ小田切取締役ハ右国有案ノ件ニ關シテハ本問題ヲ  
具体的ニ進捗セシムル際自然此点ニモ論及スルコトアルベ  
シト述べ資金調達方法ノ件ニ付テハ態ト正面ヨリ答フルヲ  
避ケ私見トシテ正金銀行カ萍鄉炭礦ニ對スル關係上南萍線  
敷設資金ハ本邦ニ於テ醸出ノ道アルベシト答ヘタル趣ニ有  
之候將又先是六月十九日李盛鐸ガ小田切取締役ニ語ル所ニ  
テハ李ハ同月十六日袁世凱ニ對シ南萍線日英合辦ノ意見ヲ  
述ヘタルニ袁ハ之ニ贊同ノ意ヲ表シ梁士詒（梁ハ前清時代  
ノ郵傳部ニ奉職セシ結果今尚交通部トハ密接ノ關係ヲ有シ  
且鉄道ニ關シ事實上実權ヲ掌握セル鐵路司長葉恭綽トハ離  
ルベカラサル因縁アルモノノ如ク為メニ支那ノ鉄道問題ハ

前信補遺トシテ此段及追報候也

七二七 八月一日 牧野外務大臣ヨリ  
在中国山座公使宛

### 寧湘線少クトモ南萍線ニ付日本ヨリ借款ノ仮

契約取付方訓令ノ件

政機密送第二〇一号

七月七日「ブラッセル」ニ開催セル五國銀行團會議ノ模様  
ハ同月八日「ブラッセル」発正金銀行本店宛翼同行倫敦支  
店支配人來電ニテ御承知ノ通リニ有之候處右ニ拠レバ實業

借款ヲ全然自由トスル問題ハ同會議ノ節一時決議延期ト成  
リタルモ實業借款ヲ五國共同範囲外ニ置クコト丈ハ既ニ確  
定シタルモノニテ只之ヲ全然自由トナスヘキヤ又ハ一定ノ

条件ヲ以テ之ヲ律スヘキヤガ未定ナルニ止マル次第ニ有之  
又一面同電末段ニ拠レハ四國團体ハ依然繼續スルコトト成  
レル趣ニ付其結果鐵道事業ニ關シ香上銀行ヲ對手トスル日

英共同ハ當分實行ノ余地ナキコト、相成タル様認メラレ將  
又滬杭甬鐵道ノ江蘇部分ハ御承知ノ通リ已ニ國有ニ決シ

（浙江部分モ亦追テ同様ノ運ト可相成歟）候ニ依リ嘗テ英  
支組合側ヨリ借入ノ同鐵道資金ハ右國有實行及線路改造等  
ノ費用ニ充テラルベク其結果同資金ヲ南萍線ニ流用ノ件ハ  
自然沙汰止ト可相成カト思考被致候就テハ此ノ如キ事態ト  
相成タル以上ハ寧湘線借款ノ義ハ最早我方单独ニテ支那側

ニ対シ之ガ商議ヲ開始スルノ時機ニ達シタルモノト認メラ  
レ候ニ依リ貴官ハ此際小田切取締役ヲシテ右ノ趣篤ト「メ  
ーヤース」ニ説示シテ其ノ承服ヲ得セシメ置キ支那側ニ對  
シ寧湘線少クトモ南萍線ニ付日本ヨリ借款方懇談ヲ遂ケシ  
メラレ仮契約又ハ概括的ノ約束丈ニテモ取付置ク様精々御  
配意相成様致度尤モ右ニ付テハ後日英國側參加ノ余地ヲ残

梁、葉兩人ノ意見ニ左右セラルガ如キ實況ナリトノコト

ナリ）モ亦之ニ同意シ且ツ李ニ對シ袁ハ交通部ヲシテ同鐵  
道問題交渉ノ衝ニ当ラシムル意見ヲ抱ケル旨ヲ告ケタル趣

ナルガ李ハ尚江西省ニ於テモ南萍線敷設ノ議アレバ同省力  
果シテ交通部ニ於テ之ヲ管掌スルヲ肯スヘキヤ否ヤ疑問ナ  
レドモ結局妥協ノ道モアルベク何レニシテモ日英ノ為尽力

ヲ辞セサルベキ旨ヲ述べタル處同人ノ語氣ニ微シ交通部寧  
湘鐵道計画ハ之ヲ熟知セザル模様ナリシニヨリ小田切取締  
役ハ右計画ノ次第ヲ内話シ其尽力ヲ求メ置キタル趣ニ有之

候

前信補遺トシテ此段及追報候也

七二八 八月七日 牧野外務大臣ヨリ  
在中国山座公使宛

### 寧湘線少クトモ南萍線ニ付日本ヨリ借款ノ仮

契約取付方訓令ノ件

政機密送第二〇一号

七月七日「ブラッセル」ニ開催セル五國銀行團會議ノ模様  
ハ同月八日「ブラッセル」発正金銀行本店宛翼同行倫敦支  
店支配人來電ニテ御承知ノ通リニ有之候處右ニ拠レバ實業

スモ勿論差支無之候ニ依リ之亦御含置相成度此段申進候也

第六〇七号

在中国山座公使  
牧野外務大臣宛  
(電報)

### 寧湘鐵道借款速ニ取極メタキ旨葉交通次長談

話ノ件

八月六日小田切別用ニテ葉交通次長ト會談ノ際先方ヨリ寧  
湘鐵道ノ件ハ其後如何ニ成行タルヤト尋ネタルニ付小田切  
ハ支那ノ時局ト歐洲ヨリ回答未タ著セサル為其眞ニナリ居  
レル旨答ヘタルニ葉ハ支那側ニテハ既ニ安徽二人ヲ派シタ  
ル行懸モアリ一面ニハ日支關係ニ付種々ナル風評ノ伝ハル  
折柄若シ中央支那ニ於ケル鐵道ニ關スル這般ノ交渉纏ラハ  
兩國ノ人心ヲ鎮ムルニ効力アルヘシト信スルニ付彼ノ件ハ  
成ルヘク速ニ取極メタシト云ヒ江西ノ現状ニテハ如何アル  
ヘキヤトノ懸念ニ對シテハ南昌モ不日陷ルヘキニ付却テ此  
際好機會ト認ムト云ヘルニ付小田切ハ「メーヤース」ト相  
談スヘシト述ヘ置キタリ尚小田切ハ其前「メーヤース」ト  
談話シタルニ同人ハ寧湘鐵道一件速ニ決定センコトハ希望  
スル所ナレトモ實業借款除外決議延期セラレタル為此際本

七 華中及華南鉄道交渉ニ関スル件 七二九

件決定セハ之ヲ五国團ノ事業トナサ、ルヘカラサル仕儀トナルヘシト当惑シ居リタル由

七二九 八月十五日 在中国山座公使（ヨリ）牧野外務大臣宛（電報）

寧湘鉄道借款ニ關シ我方単独ニテ中國側ト協

議シタキ旨「メーヤース」へ申入ノ件

第六四四号

貴電第三八八号ニ關シ八月十四日李盛鐸本邦ヨリ帰來ノ挨拶トシテ伊集院及本使ヲ來訪シタルニ付日支実業聯合ニ關シ具体的ノ案トシテ如何ナル計画ガ急務ニシテ且成立シ易キモノト思料スルヤラ尋ネタルニ同人ハ躊躇ナク南萍線ナリト答ヘ其理由トシテ南萍線ハ元來省議会ノ決議ニ依リ江西省ニテ經營スルコトナリ居タル処今回ノ事变ニテ省議会解散サレ當分省ニテ經營スヘキ途ナキニ付中央政府ガ該鉄道ニ關シ日本側ト協定スルコト何等差支ナキニ至レリ就テハ此ノ機ヲ逸セス南萍線ニ關スル商議ヲ定メ日支実業聯合ノ実ヲ挙クルヲ得策トス（往電第六〇七号葉ノ小田切ニ対スル談話参照）ト云ヘリ然ルニ本件ハ從来ノ行懸上予メ「メーヤース」ニ打合セ置クノ必要アルニ付本使ハ同日小

八三六

田切ヲシテ同人ニ面会セシム貴電第三八八号ノ理由ヲ述ヘ當分香上銀行又ハ「ブリチッシュ、チャイニース、コープ

レーシヨン」ヲ相手トスル實業借款ヲ為スヲ得サルヘキ處一面江西ノ事情ハ斯ノ如ク猶予スヘカラサルモノアリ而カモ支那内閣ノ交迭ハ數日ノ内ニ迫リ居リ交通部總長ニ擬セラレ居ルトノ風評アル楊士琦ハ斯ル相談ヲ為スニ面倒ナル人物ナレハ現在ノ當局者在任中本件ヲ纏メ置クコト極メテ

繁要ナリ且蘇杭甬鐵道資金ニ關シテモ江蘇鐵道既ニ國有ニ帰シ從來面倒アリシ浙江ノ分モ目下ノ形勢ニテハ江蘇ト同様ニ始末ヲ附タルコト容易ナルヘシト思ハル、ニ付此際日本側ニ於テハ單独ニ支那政府ト交渉シ寧湘鐵道金線尠クトモ南萍線ニ關シ協議セント欲ス尤右ハ英國資本ヲ入ルベ意ニ非ズ目下ノ必要上便宜ノ処置ナレハ英國資本ヲ入ルベキ余地ヲ存シ置クコトハ勿論異存ナシ若シ英國側ニシテ此際同意ヲ躊躇シ此ノ機會ヲ逸スル如キコトアラハ「メーヤース」ハ重大ナル責任ヲ負ハサルヘカラサル旨申入レシメタルニ同人ハ（此間不明）自分一存ニテ何等決答ヲ為シ得ヘキ筋合ニ非ラサルニ付早速倫敦ヘ電報シ指揮ヲ仰クヘキ旨答ヘタル由

七三〇 八月十五日 在中国山座公使（ヨリ）牧野外務大臣宛（電報）

寧湘鉄道我方単独借款案ニ付オルストン英國

代理公使トノ会談要領報告ノ件

第六四五号

往電第六四四号ニ關シ「メーヤース」ハ倫敦ヘ發電前英國代理公使トモ相談スヘキ旨述ヘタル由ナルヲ以テ旁本使ハ八月十五日同官ニ面会シ抑モ福建ヨリ南昌ヲ經テ武昌ニ至ル線路八十四年前ヨリ日本國政府ノ要求セルモノナルコト英國政府モ承知ノ通リニシテ其一部ハ多分寧湘線ト一致スル所アルヘク且南萍線ニ至リテハ其両端タル南潯鐵道萍鄉炭山ト共ニ日本力重大ナル「ヴェステッド、インテレスト」ヲ有スル為メ速カニ之ヲ敷設シタキ希望アリテ予テヨリ支那側ト相談シ居ル次第ナリ殊ニ過般孫寶琦李盛鐸力袁世凱ノ使命ヲ帶ヒ日本ヲ訪問シタル際先方ヨリ南萍線ヲ日支共同ニテ敷設經營シタキ希望ヲ申出テタルコトモアリテ本使ハ出發前帝國政府ヨリ著任ノ上ハ關係各方面ト協議ノ上本件ヲ確定スヘキ旨訓令ヲ受ケタリト打明ケタル後既報小田切ト交通次長并ニ本使ト李盛鐸トノ談話ニ揚士琦ノ人

七 華中及華南鉄道交渉ニ關スル件 七三〇

物ニ關スルコト杯モ加ヘテ申聞ケ此機會ヲ失フコトハ絶対ニ不利益ナリト認メラル所英國側ハ借款團契約ニ束縛セラレ居リ為メニ公然日英共同ノ義ハ此際不可能ナルニ付日本ノミニテ寧湘線尠クトモ南萍線ノ仮契約ニテモ取附ケ置キタシ之ヲ英國側ヨリ見ルモ現在ノ如ク銀行團規約ニ束縛サレ居ル限りハ差当リ日本ヲシテ權利ヲ獲得セシメ置キ然ル上ニテ日本ト共同スルノ外良策ナカルヘク若シ此併ニ捨置カハ啻ニ時機ヲ失スルノミナラス他ノ外國殊ニ白耳義側ニ於テ寧湘線又ハ類似ノ契約ヲ締結スル虞アリ蘇杭甬鐵道ニ關スル事情ノ変化ヨリ英國ノ立場ハ昔日ト異ナルモ兎ニ角從來ノ行懸リモアルコト故一応同意ヲ求ムル次第ナリト述ヘタルニ「オルストン」ハ成程英國ハ現在ノ規約ニ束縛ノ如キ其適例ナリ我東亞興業會社ハ南潯線資本主ナルカ故ニ本件ニ付テモ或ハ同會社契約当事者トナルベク必シモ横浜正金銀行ノ名義ヲ以テスル要スラナシト澹泊ニ述ヘタル

所同官ハ日本國カ南萍線ニ対シ利害ヲ有スルコトハ予テ聞及ヒ居レリ然シ「ジョルダン」ハ曩ニ伊集院氏ヘモ話シタル通り支那鉄道問題ニ關シ根本的意見ヲ支持シ居ルニ付旁以テ自分限リ贊否ヲ表スル能ハサルニ依リ本国政府ニ電票スヘシト云ヘリ

右様ノ次第ニテ且交通部ハ英國ノ承諾ナキ限り決シテ日本ノミニ此権利ヲ与ヘサルヘキニ付至急在英大使ヲシテ往電第六四四号及來電ノ次第ヲ詳シク英國政府ニ開陳シ同政府ヲシテ事情已ムヘカラサルモノアルコトヲ了解セシメ同意ヲ得ル様御取計相成タシ

七三一 八月二十五日 (牧野外務大臣ヨリ  
在英國井上大使宛) (電報)

寧湘鉄道問題ニ關連シ實業借款自由化ニ關ス

ル英國政府ノ見解ニ付先方ニ注意喚起方訓令

ノ件

第一四一號

貴電第一一九號 (註1)ニ關シ

恰モ接受シタル機密公第七〇号貴信ハ本問題ト關係アル処右貴信附屬覺書中

① The agreement to withhold their approval from such loans etc.

トアル處帝国政府ノ關スル限り特ニ實業借款ニ關シ此種約束ヲナシタルコトナシ右ハ如何ナル約束ヲ指ス次第ナルヤ改革借款ソニ調印發行セラタル今日ニ於テハ帝国政府カ自國臣民ノ對支借款承認上顧慮すべキハ改革借款契約第十七条第二項ノ規定ノミニ止リ六国團体規約ノ為何等政府自身ノ行動ヲ束縛セラルベキ理由ナン又我正金銀行ハ四國團体トハ全然無關係ニシテ唯六国團規約(六国團體規約ハ四國團體規約ヲ繼承スルノ精神ニテ成立シ所謂same footingニ立シトノ論ハ固ヨリ首肯シ難シ)ノミニ依リ束縛セラルモノナル處實業借款ハ已ニ主義上該規約ヨリ除外セラルコトナリ唯之ヲ条件付トナスベキカ或ハ無条件トナスペキカガ問題トナリ居リ而モ帝国政府ハ結局無條件除外ノ外致方ナカルベキ旨英國政府ニ回答シ置キタル次第アルノミニナラズ寧湘鉄道ニ付テハ我方ニ於テ必シモ正金銀行ノ名義ヲ用キザルベカラザル次第ニハアラズ

(イ)英國政府ハ兎角四國團體ノ關係ト六国團體ノ關係トヲ混同スル傾アリ現ニ前記覺書末段ニモ英國政府ハ四國團體規

#### 第四一四號

約滿了次第實業借款ニ關シ自由行動ヲ執リ得ル様記載シアル処 (as stated in the memorandum of May 23 トアルモ五月二十三日ノ覺書ニハ斯ル意味合ナシ英國政府ニ於テ何等誤解アルベシ) 帝國政府ノ關スル限り四國團體規約ノ關係ハ全然問題トナラズ就テハ以上二点ニ付キ英國當局ノ注意ヲ喚起シ其回答振電報アリタシ

將又當方ニ於テハ英國政府カ別ニ四國團體ノ關係ヲ云為スルハ四國團體所屬英國團體ニ對シ独占的援助ヲ約シ居リ同團體ハ六國團體ニ屬シ居ル為四國團體規約滿了迄ハ實業借款ヲ六國團體ノ關係ニ於テモ自由トナスコトヲ欲セサルニアラズヤトモ思料セラルニ付其辺ノ事情モ御内探ノ上併テ電報アリタシ

註<sup>1</sup> 一二〇文書

2

一一四文書

七三一 八月二十六日 (牧野外務大臣ヨリ  
在中國山座公使宛) (電報)

寧湘鐵道問題ト實業借款分離問題トノ關係ニ  
關スル英國側見解ニ対シ注意ヲ喚起シ置キタ

ル旨通報ノ件

七 華中及華南鐵道交涉ニ關スル件 七三II

借款調印発行後ノ今日ニ於テハ帝国政府ハ自國臣民ノ對支借款承認上顧慮スペキハ改革借款契約第十七条第一項ノミニシテ六国團体規約ハ正金銀行ヲ拘束ズルモ政府ノ行動ヲ束縛スルコトナシ況ヤ実業借款ハ主義上已ニ除外ノコトニ決シ只条件付自由カ無条件付自由カガ問題タルノミニテ殊ニ寧湘鉄道ハ正金ノ名義ヲ用キサルベカラサル次第ニアザルニ於テヲヤ(右覺書末段ニ英國政府ハ四國團規約満了次第実業借款ニ關シ自由行動ヲ執リ得ル様記載シアルモ)

英國政府ノ閔スル限り四國團体規約ハ全然問題トナラズ尚同時ニ井上大使ニ対シ英國政府カ頻ニ四國團体規約ヲ云為

スルハ同政府ハ四國團体所屬英國團体ニ対シ獨占的援助ヲ約シ居リ從テ四國團体規約満了迄ハ實業借款ヲ六国團体ノ關係ニ於テモ之ヲ自由トスルヲ欲セザル次第ニアラズヤ内情併テ電報スベキ旨申添置タリ

一九一九年六月六日

在英國井上大使館ヨリ

寧湘鉄道問題ニ閔スル英國政府トノ交渉経過報

告ノ件

附屬書一 八月二十日附在英國日本大使館ヨリ英国外

政機密公第七八号

大正二年九月六日

在英特命全權大使 井上勝之助(印)

外務大臣男爵 牧野伸頤殿

寧湘鉄道問題ニ閔スル英國政府回答覺書写及

之ニ対スル本使覺書写送付ノ件

客月二十日英国外務省ニ於テ次官補及極東課長列座ノ席ニ於テ寧湘鉄道問題ニ閔スル帝国政府ノ御希望ヲ開陳シ同時ニ我方希望ノ要領ヲ摘記シタル覺書(別紙甲号写ノ通り)ヲ交付致置キタル次第ハ屢次報告ニ及置候通リニ有之候處時恰モ外務大臣次官補等休暇不在等ノ為メ回答段々遷延致候ニ付再三督促ニ及候處漸ク昨五日別紙乙号写ノ通り回答

務省宛覺書写  
寧湘鉄道ニ閔スル我方单独交渉ニ付英國側ノ了解ヲ得タキ件

II 九月五日附英国外務省覺書写  
實業借款分離迄ハ日本ノ單獨行動ヲ援助セガル旨明ノ件

III 九月六日附井上大使覺書写  
緊急必要ノ処置トシテ日本ハ單獨交渉ヲナス件

致來候其要領ハ不取敢即日及電報候ニ付御承知相成候コトト存候右回答ハ本月一日外務大臣一時帰倫ノ節決定致候モノ由ニ候處其要領ハ過日電報ニ及候處ト大体同様ニシテ実業借款ノ正式ニ分離セラルニ至ル迄ハ關係各國ハ其國人ノ独立企業ニ対シ援助ヲ与フヘカラサルモノト思惟スト云フニ有之問題其モノノ実體ニ付テハ意見ヲ表白致居ラサルノミナラス右覚書中ニハ我方ヨリ進シテ英國資本家ノ協同ヲ誘ヒタルカ如ク記載シアリ且ツ其末節ノ如ギハ要領ヲ得難ク被存候ニ付尚日本側立場説明ノ為メ此際本問題ノ交渉ヲ速ニ進行セサルニ於テハ第三者ノ之ニ指ヲ染ムルノ虞アルコト并ニ本邦力単独ニ支那ト交渉セントスルハ臨機ノ手段ニシテ将来英國資本家ニシテ協同ヲ希望スルニ於テハ歎シテ之ヲ迎フルモノナル旨不取敢別紙丙号写ノ通り外務省宛ニ覺書送付致置候委曲別紙ニ就キ御承知相成度此段申進候 敬具

(附屬書一)

Copy

甲 仰

The Nanking-Hsiangt'an Railway.

At the time when the information reached to the

七 華中及華南鉄道交渉ニ閔スル件 十三

八四一

Japanese Government that the Chinese authorities were contemplating the construction of the line of railway between Nanking and Hsiangt'an in Hunan, Mr. Odagiri, representative of the Yokohama Specie Bank in Peking approached the Chinese Minister for Finance with a view to financing the scheme. Considering however the importance of the British interests in the Yangtze valley Mr. Odagiri suggested to the Finance Minister that the undertaking would better be carried out with the joint capital of the Japanese and the British. Sir John Jordan while approving of the proposal as a preliminary measure preventing the concession from falling into the hands of the parties other than British and Japanese, intimated to Mr. Ijuin on April 5th last that the negotiation of the matter could not conveniently be carried on any further owing, it is presumed, to the restriction imposed upon the British capitalists by the Four Power Group Agreement.

In the opinion of the Japanese Government, however, there is a grave danger of the concession being obtained by the third party unless the matter is taken up immediately with the Chinese and concluded while

the present officials who have been concerned with the matter are still in power and they consider that the matter should not be allowed to drift until the British capitalists are freed from the Quadruple Agreement which they understand would still remain in force for some time. They are therefore desirous to take steps necessary to open negotiations with the Chinese authorities at once with a view to financing the construction of the railway, and hope that the British Government and the British and Chinese Corporation will raise no objection to Japan's negotiating with the Chinese on the matter. In this connection they desire to point out, firstly, that the matter was originally broached by Mr. Odagiri to the Chinese authorities, secondly, that Japan has more than once been approached by the Kiangsi authorities with a view to financing the building of Nanchang-Pinghsiang line in which Japan has special interests and rights in view of the line being closely connected with the Pinghsiang mines and also with the Nanchang-Kiukiang railway, thirdly, that as the Chinese have decided to build themselves the Shanghai-Hanchow-Ningpo line the fund which they have obtained from the British and Chinese Corpo-

British co-operation in this enterprise.

His Majesty's Government have in the Memoranda communicated to the Powers on May 23rd and July 31st indicated their desire that the Inter-group Agreement of June 20th, 1912, should be modified so as to free purely industrial loans from the control of the Five Powers Consortium, but until such modification is formally agreed to by all the Powers interested, and a date fixed by mutual arrangement on which it can take place, His Majesty's Government hold that neither they nor their partners in the Five Power policy are free to support independent enterprise by their nationalities.

The Japanese Government are aware that apart from the Quintuple Agreement His Majesty's Government are committed to withhold their support from British groups other than that which concluded the Triple Agreement with the French and German groups, until that Agreement has been terminated.

Moreover, the British Group themselves, whose cooperation the Japanese Group now invite, would be precluded by their engagements to their French and German partners under that agreement from accepting

ration will be expended for its construction as originally intended and consequently the idea of transferring the fund for the construction of Nanchang-Pinghsiang line will have to be abandoned and finally, that the proposed action on the part of Japan is a measure required by the exigency of the moment and they are quite prepared to cooperate with the British capitalists in future, whenever they desire to participate in the undertaking.

Japanese Embassy,

August 20th, 1913

(蓋屬印)

Copy

N

MEMORANDUM

His Majesty's Government have given their careful consideration to the Memorandum communicated on the 20th ultimo by the Japanese Ambassador respecting the projected railway from Nanking to Hsiangt'an, in which the Japanese Government are stated to be anxious that the Japanese Group should approach the Chinese Government with a view to financing the construction of the line, and express their desire for

the Japanese invitation until they are set free by its termination.

The arrangement recommended by the Japanese Government could therefore only become practicable on the termination of both the Inter-group Agreements referred to.

His Majesty's Government are, however, now actually seeking to terminate the Triple Agreement on the ground that the whole system of co-operation between different groups is, owing to the opportunities of successful competition open to independent third parties, practically breaking down. To enter into a fresh inter-group arrangement at the very moment when it has become necessary to abandon the principle of such combinations would be to stultify the very policy which His Majesty's Government have been driven by the force of circumstances to adopt.

This policy would not preclude their agreeing to the co-operation of British and Japanese concessionaires in particular transactions, but each case would have to be considered on its merits, and co-operation depend upon the willingness in each instance of the particular firms or groups concerned to admit the participation

ナ 華中及華南鐵道交涉リ闇ベル件 十四

of partners of the other nationality, on conditions to be agreed upon.

Foreign Office,

September 5th, 1913.

(密函件)

COPY

EC

The Japanese Ambassador presents his compliments to the Secretary of State for Foreign Affairs, and has the honour to acknowledge the receipt of his Memorandum No. 38598/13 dated September 5th 1913 on the subject of Nanking-Hsiant'an Railway Loan.

The object which Monsieur Inouyé had in view when he discussed the question with Sir Eyre Crowe and Mr. J. D. Gregory on August 20th, was to request the consent of the British Government and of the British and Chinese Corporation to the action which Japan is contemplating to take in negotiating with the Chinese authorities at once with a view to eventually financing the construction of the railway. Sometime ago an information reached the Japanese Government to the effect that a certain foreign firm in Shanghai had been in communication with the Chinese authori-

Monsieur Inouyé therefore earnestly hopes that Sir Edward Grey will appreciate the magnitude of Japan's interests involved in the whole question and see his way to give favourable consideration to the matter.

Japanese Embassy,

September 6th, 1913.

ナリテ別紙写之通覚書送付致來候右依ニイ英國ノ揚子江附近ニ於ケル特殊ノ利益ニ鑑ニ日本政府ニ於テ主義上南滿洲ニ於テ英國人ノ事業ノ經營ヲ承認セラルニ於テハ英國政府モ亦タ本邦人ノ揚子江附近ニ實業計畫ヲ承認ベシトニ謂フリ有之候處右等ノ如ギ提議ハ我カ対滿政策ニ鑑ニ到底我方ニ於テ承諾ヲ与ケルルキモノニ非ラサル義ト認メラン候ニ付本件ニ關シ此後交渉ヲ重ヌルモ満足ナル結果ヲ見ルコト覺束ナカルキ事ト被存候ニ付テハ本鉄道事件ハ寧ニ此際支那ヲシテ之ヲ敷設センメ裏面ニ於テ日本人ノリニ關与ヘルノ手段ヲ講ヘルノ外ナカルキカト被思考候右覺書ニ闇シテハ昨十一日電報ヲ以テ不取敢報告ニ及置候ニ付既ニ御承知ト存候得共尚為念右写茲ニ差進候條御査閱相成度此段報告申進候 敬具

(密函件)

英國外務省覺書

Copy

No. 43164/13.

His Majesty's Government have given their careful attention to the Memorandum on the subject of the Nanking Hsiangt'an Railway Loan which was presented

ties for the Nanchang-Pinghsiang Railway loan and that a provisional agreement was about to be concluded. As Monsieur Inouyé indicated in his Memorandum of the 20th ultimo, Japan has special interests and rights in the above railway which is closely connected with the Pinghsiang mines and with the Nanchang-Kiukiang railway, and Sir Edward Grey will readily understand that Japan can not allow such railway concession as this being obtained by a third party. There has also been constant fear of the projected Nanking-Hsiangt'an Railway Loan or a loan similar to it being negotiated with the Chinese by outsiders, most probably the Belgian capitalists. Moreover, there is a likelihood of the present Chinese officials who have been favourably disposed in the negotiation of the matter being superseded by others who may not be so well disposed. Under such circumstances Japan is most anxious to push the question without delay and it is hardly necessary to repeat herewith that as the proposed action on the part of Japan is a measure required by the exigencies of the moment Japan is quite prepared to co-operate with the British capitalists in future, should they desire to participate in the undertaking.

ナリテ別紙写之通覚書送付致來候右依ニイ英國ノ揚子江附近ニ於ケル特殊ノ利益ニ鑑ニ日本政府ニ於テ主義上南滿洲ニ於テ英國人ノ事業ノ經營ヲ承認セラルニ於テハ英國政府モ亦タ本邦人ノ揚子江附近ニ實業計畫ヲ承認ベシトニ謂フリ有之候處右等ノ如ギ提議ハ我カ対滿政策ニ鑑ニ到底我方ニ於テ承諾ヲ与ケルルキモノニ非ラサル義ト認メラン候ニ付本件ニ關シ此後交渉ヲ重ヌルモ満足ナル結果ヲ見ルコト覺束ナカルキ事ト被存候ニ付テハ本鉄道事件ハ寧ニ此際支那ヲシテ之ヲ敷設センメ裏面ニ於テ日本人ノリニ關与ヘルノ手段ヲ講ヘルノ外ナカルキカト被思考候右覺書ニ闇シテハ昨十一日電報ヲ以テ不取敢報告ニ及置候ニ付既ニ御承知ト存候得共尚為念右写茲ニ差進候條御査閱相成度此段報告申進候 敬具

在 英

特命全權大使 井上勝之助

外務大臣男爵 牧野伸顕殿

寧湘鐵道問題ニ關シテハ客月六日政機密公第七八号ヲ以テ

報告致置候次第有之候處當時本使ニ提出ノ回函付覺書

ニ対ヘル回答ヘシテ漸ヤク一昨十一日付ヲ以テ英國外務大

七 華中及華南鐵道交涉リ闇ベル件 十四

由 the Japanese Ambassador on the 6th ultimo.

His Majesty's Government understand the dislike of the Japanese Government to the concession in question being given to a third party. They fully appreciate the force of the arguments advanced in favour of Japanese co-operation in the concession and they have already intimated their willingness to meet Japanese wishes in the matter as far as may be practicable.

In determining, however, the extent to which they can assent to the proposals put forward by the Japanese Government they are necessarily bound to take into account considerations arising out of their known policy in China to which in the changing conditions of to-day they feel it more than ever important to adhere.

As the Japanese Government are aware, British interests have a peculiar and predominant position in the Yangtse Valley, and His Majesty's Government consider themselves justified in claiming for those interests in the traditional and acknowledged field for British industrial enterprise in China the same consideration that the Japanese Government have claimed for Japanese interests in South Manchuria on account

enterprise in South Manchuria.

Provided that the Japanese Government agree to this in principle, His Majesty's Government would then be prepared to consider any proposal which they may put forward regarding the extent of the co-operation with which they would be satisfied. But the extent of such co-operation must naturally be commensurate with the amount of capital that the Japanese Group would be prepared to subscribe to the scheme and the apportionment of the benefits accruing therefrom to the two countries must be calculated on this basis.

Accordingly they would be glad to be informed of the approximate amount of capital which the Japanese Government anticipate would be supplied from Japanese sources, and, further, to learn the specific material advantages which the Japanese Government particularly desire to obtain for their nationals.

Foreign Office,

October 11, 1913.

(押證文)

(霧湘鐵道問題ノ關ヘル件 中川)

モリ在英井上大使ニ送付ヤル覺書証文)

十一 蘭中及華南鐵道交涉ノ關ヘル件 中川

of their special position in regard to that province.

The Japanese Government will therefore readily understand that His Majesty's Government would desire to see the Concession in question fall to a British group and that they will be impelled in their own interests to accord such a group their full support in any endeavour to obtain it. It is only natural that His Majesty's Government should be anxious that the control of a line which not merely runs exclusively in the region where British influence and interests are predominant but which also connects two existing enterprises financed by British capital shall be vested in British hands. In corresponding circumstances in South Manchuria the Japanese Government would no doubt desire that the control of a line should be vested in Japanese hands.

His Majesty's Government would be glad to consider in what manner and to what extent it would be practicable to arrange for subsequent Japanese participation in the scheme but if the Japanese Government desire to obtain benefits or privileges in the Yangtse Valley it would be only equitable that they should be prepared to concede corresponding advantages to British

英國政府ハ日本國大使ニリ九月六日ヲ以テ提出セラシタル  
寧湘鐵道借款ノ關ヘル覺書ニ於シ慎重ナル考量ヲ加ケタル  
末日本國政府ニ於テ本件特許ハ第三者ニ与ケラルヲ好マ  
サル次第ヲ了解シ且本件特許ニ対ハ日本ニ於テ參加ヲ主張  
ヤル論據ヲヤ充分ニ諒認シ既ニ本問題ノ關ノ出來得ル限り  
日本ノ希望ニ應スくキ意思アカルニカ日本國政府ニ通知セ  
リ然ルハ日本國政府ノ提議ハ対シ如何ナル程度迄同意シ得  
キヤラ決定スルリ当リテバ英國政府ハ先ツ其支那ニ於ケ  
ル既定ノ政策ニ基ク諸般ノ關係ヲ考慮セサルヲ得ス而シテ  
該政策タルヤ今日ノ如キ変動常ナキ状態ニ於テハ從前モリ  
ヘ一層之ヲ恪守ベルコト緊切ナルヲ覺ル日本國政府ニ於テ  
承知ヤカル通揚子江流域ニ於ケル英國ノ利害關係ハ一種  
特異ニシテ且シ優越ナル地位ヲ有ス而シテ英國ノ實業經營  
区域シテ伝來的ニ承認セラレタル地方ニ於テ右利害關係  
ニ付主張スルカトベ英國政府ニ於テ固ヨリ至近ナリト思考  
スル所ナリ是ハ恰ヤ日本國政府カ南滿洲ニ於テ特殊ノ地位  
ヲ有スル為同地方ニ対シ其利害關係ヲ主張スルト同ナリ  
右ノ次第ナルヲ以テ英國政府カ本件特許ヲ英國團體ノ手ニ  
取メバコトヲ欲シ且英國政府ニ於テ右特許ノ獲得運動ハ關

シ其利害關係上該團体ニ對シ十分ナル援助ヲ与ヘサルヘカラサルニ至ルヘキハ日本國政府ノ容易ニ了解セラル處ナルヘシ將又英國政府ニ於テ全然其勢益範囲内ヲ通過スルノミナラス現ニ英國ノ資本ヲ投下セルニ線ニ連接スヘキ本件

線路ノ管理ヲ英國ノ手ニ帰セシメムト欲スルハ固ヨリ當然ノコトニシテ南滿洲ニ於テ同様ノ場合ニ際セハ日本國政府ハ必スヤスル線路ノ管理ヲ其掌中ニ収メムト欲セラルヘキハ蓋シ疑フ容レサル所ナルヘシ英國政府ハ本計画成立後如何ナル方法ニ依リ又如何ナル程度迄日本ヲ參加セシメ得ヘ

キカラ考量スヘキモ日本國政府ニシテ揚子江流域ニ於テ何等利益又ハ特權ヲ獲得セント欲スルニ於テハ南滿洲ニ於テモ英國ノ企業ニ對シ之ニ相當スヘキ便宜ヲ与フルノ覺悟ヲ有スルコト至当ナリトス

日本國政府ニシテ若シ主義上之ニ同意セハ英國政府ハ日本國政府ノ欲スル共同範囲ニ關スル如何ナル提議ニ對シテモ考量ヲ加フヘク尤モ右ノ共同範囲ハ日本團体カ本計画ニ對シ支出シ得ヘキ資金ノ額ニ應シタルモノナルカトモ察セラルナラス該計画ヨリ生スル利益ノ分配モ亦此基準ニ依リ算出セサルヘカラス故ニ英國政府ハ日本國政府ニ於テ日本ノ資

## 七三五 十一月二十四日

(牧野外務大臣より  
在英國井上大使宛(電報)

## 南潯南萍兩鐵道借款等ニ關シ英國側ノ諒解ヲ

## 得夕キ旨訓令ノ件

## 第一八六号

寧湘鐵道問題ニ關スル十月十一日付英國政府ノ覺書ニ就キ英國政府ハ篤ト考量ヲ加ヘタル處英國政府ニ於テハ該問題ヲ以テ恰カモ日本ガ英國ノ利益關係ヲ侵蝕セントスルモノナルガ如ク思惟シ揚子江流域ニ於ケル勢力範囲ノ擁護ヲ計ラントスルモノノ如ク察セラル、処此際勢力範囲ノ問題ニ立入ルコトハ極メテ微妙ナルノミナラス日英両國ノ対支那政策ノ大方針ニモ影響スル處アルヘキニ付英國政府ハ此問題ニ触ルヘコトヲ避ケタク而シテ寧湘問題ハ屢次ノ公信及電報等ヲ以テ申進メ且シ貴官ガ英国外務當局者ニ手交セラレタル八月二十日及九月六日付覺書ニモ記載シアルガ如ク

關係地方ニ於ケル日英両國ノ利益ガ第三國ノ為メニ侵蝕セラレントスルヲ防止スルガ為メ臨機ノ便法トシテ提議シタル次第ニシテ両國利益ノ自衛手段ニ外ナラズ唯ダ我提議ガ南京湘潭全線路ノ敷設ニ言及シアリタルガ為メ英國政府ニ於テモ或ハ不安ノ念ヲ惹起シタルモノナルカトモ察セラルニ就テハ貴官ハ至急英國政府當局者ニ會見セラレ篤ト前陳ノ趣旨ヲ述ヘラレタル上帝帝國ハ其利益ノ關スル限リニ於テハ敢テ南京湘潭全線路ニ對シ指ヲ染メントスルモノニアラズ唯タ多年引続キ巨額ノ借款ヲ本邦ヨリ供給シ居レル九江ヨリ南昌ヲ經過スル南潯鐵道(以前ハ江西鐵道ト称セリ)及同シク本邦ノ借款ヲ以テ經營セル萍鄉鈍山ノ兩地方ヲ連絡スヘキ南昌萍鄉間ノ鐵道ハ右借款供給ノ關係上是非共本邦ニ於テ資金融通ノ關係ヲツケ置キ度ニシキ英國當局ニ於テモ我立場ヲ諒トシ本邦側ニ於テ支那當局ト該件ニ關シ交渉ヲ進ムルコトニ異議ヲ有セラレサランコトヲ望ム尤モ英國資本家ニシテ右ニ參加ヲ望ムモノアラバ本邦側ニ於テハ固ヨリ協同スルコトヲ躊躇スルモノニアラサル旨ヲ開陳セラレ先方ノ回答電報アリタシ尚貴官ハ此機會ニ於テ前記英國政府ノ覺書中滿洲ニ於ケル本邦ノ利益關係ニ言及セル点

ニ關シ滿洲ニ於ケル本邦ノ關係ハ啻ニ經濟上ニ止マラズ政治上及國境ノ近接ヨリ生スル種々ノ重要ナル特別關係アルモノナルコトヲ指摘セラレ英國政府ニ於テモ叙上ノ特別關係ニ顧ミ同地方ニ對スル日本國民全体ノ特殊ノ感想ヲ深ク考量ニ入レ置カレンコトヲ切望スル旨ヲ附言セラルヘシ

## 七三六 十一月二十八日

(在英國井上大使より  
牧野外務大臣宛)

## 寧湘鐵道問題ニ關シ英国外務省トノ往復覺書

## 写送付ノ件

附屬書一 十一月二十七日附日本大使館覺書寫

南萍鐵道借款ニ關シ日本ガ中國ト交渉スル

ニ付了解アリタキ件

二 十一月二十七日附英国外務省覺書寫

英國業者ノ南萍鐵道借款交渉ニ關シ日本側

ノ諒解ヲ得タキ件

(十一月十七日接受)

大正二年十一月二十八日

在英國

特命全權大使 井上勝之助(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

寧湘鐵道問題ノ閣ノ貴電第一八六号御謹長ノ趣旨並ニ十七日英国外務次官補「ハシタノ」氏ニ篤ト申入置候次第、往電第一七五号ノ通ニ有之候處（右ノ閣ノ本使ニ回氏）手交シタル覚書（別紙甲号ノ通）回互、本使右会談ノトニ帰館後行達ニリ前國外務省ニ本件ノ閣スル覚書ヲ送越候因テ右覚書要領ハ往電第一七六号ヲ以テ不取敢及御報告候（共犯為念右覚書母（ノ））茲ニ及御送付候間御査閱相成度此啟申進候 敬啟  
(蓋屬特1)

Copy

申  
事

Purport of the Telegram received from Tokio.

The Imperial Government has given its careful consideration to the Memorandum of the British Government dated October 11th last regarding the Nanking-Hsiangtan Railway. It is far from the intention of the Imperial Government to encroach upon British interests by undertaking the scheme in question. As clearly set forth in the Memoranda of the 20th August and of the 6th September which you had handed over

position in regard to this question and will have no objection to Japan's carrying on negotiations with China on the matter. It should be clearly understood, however, that Japan will not hesitate to agree to the participation of British capitalists in the undertaking, should they so desire.

With regard to Japan's interests in South Manchuria, mentioned in the Memorandum of the British Government dated October 11th last, her relation with Manchuria is not only that of economic interests but of the important special relation accruing from political considerations and its geographical proximity to her frontiers. In view of the above-mentioned various special relations of Japan with Manchuria, the Imperial Government sincerely hopes that the British Government will for its careful consideration keep in view Japan's special relations in regard to that district.

Japanese Embassy,

November 27th, 1913.

(蓋屬特1)

Copy

N  
事

英国外務省覺書写

七 華中及華南鐵道交涉ノ閣スル件 十三

六〇  
to the authorities of the British Government, the proposal of the Imperial Government was simply the measure required by the exigencies of the circumstances to safeguard the interests of both countries in the region concerned against being encroached upon by a third Power and it is therefore nothing but an action of preserving their mutual interests.

You are hereby instructed to explain the views of the Imperial Government in the following sense:— Although it is not Japan's intention, so far as Japanese interests are concerned, to undertake a loan for the whole extention of the Nanking-Hsiangtan Railway, yet in view of the fact that Japan has been supplying loans for many years past for a considerable amount to the Kiangsi Railway, which starting from Kukiang is to pass Nanchang, and also the fact that the Pingsiang mines are being worked by dint of a Japanese loan, the Imperial Government most earnestly desires to see that the funds for the construction of a section between Nanchang and Pingsiang of the Nanking-Hsiangtan Railway are supplied by Japan. The Imperial Government, consequently, hopes that the British Government will fully appreciate Japan's

No. 52206/13.

On the 11th ultimo a Memorandum was communicated to the Japanese Ambassador expressing the views held by His Majesty's Government with respect to the proposals for the Nanking Hsiangtan Railway Loan.

His Majesty's Government are anxious to authorize the British Financial interests concerned to enter into negotiations on this subject with the Chinese Government as soon as possible, with a view to avoiding the danger, already foreseen and pointed out by the Japanese Government, of the concession in question being obtained by a third party, and, for this purpose they would be glad if His Excellency could obtain a reply from the Japanese Government to the above-mentioned Memorandum at an early date.

Foreign Office,

November 27, 1913.

申  
事

十一月廿九日 在南京船津領事ハ  
桂兼任外務大臣宛